

令和7年度 佐呂間町教育の概要



若佐小学校入学式



若佐小学校運動会

佐呂間町教育委員会

目 次

佐呂間町の概要	1
佐呂間町教育目標	2
学校教育目標	3
佐呂間町教育行政推進方針（抜粋）	4
学 校 教 育	
学 校 概 要	
佐呂間小学校	8
若佐小学校	10
浜佐呂間小学校	12
佐呂間中学校	14
佐呂間高等学校	16
学校教育団体	18
統廃合の沿革	19
社 会 教 育	
社会教育目標	24
社会教育関係事業	26
社会教育団体	34
教 育 予 算	36
教 育 施 設	
施設の概要	37
施設の利用状況	39
教育関係委員名簿	40
佐呂間町教育委員会事務局の機構	41

佐 呂 間 町 の 概 要

■ 沿 革

佐呂間町は、1894年(明治27年)、鈴木甚五郎が青森県から入植し浜佐呂間に定住したことに
より歴史の1ページが始まった。その後、本州各地から農漁業を営む入植者が次々と来住、本
町を開拓してきた。そして農林漁業を基幹産業とし、また、サロマ湖を中心に観光地として発
展を遂げ、1994年(平成6年)に開基100年を迎えた。

■ 町名の起源

町名は、アイヌ語の「サロ・オマ・ペット(葦のあるところの川)」と「サラ・オマ(葦のある
ところの沼)」が起源とされており、それが転じて「サロマ」となり、1915年(大正4年)に「佐
呂間」と和文転用された。

■ 位置と面積

オホーツク管内のほぼ中央部に位置し、北見市、湧別町、遠軽町と隣接しており、北方一帯
はサロマ湖に面している。総面積は、404.99平方キロメートルを有している。

■ 地 勢

佐呂間町は、大雪山系の山々を背景に、東西が細長く、北方は丘陵地帯を形成し、またその
一帯は海に面している。町の中央を流れる佐呂間別川はサロマ湖へと注ぎ、流域一帯には肥沃
な大地が広がっている。

■ 町 章

佐呂間町のカナ文字を「サ」が「口」と「マ」を囲むように図案化した
ものである。横棒が、全町を固く結んだ町民の心、一致団結、共存共栄、
円満な理想郷を表している。



(昭和28年4月1日制定)

■ 人 口

各年9月末日現在

年	世 帯 数	総 数	男	女
平成25年	2,562	5,770	2,698	3,072
平成26年	2,556	5,655	2,638	3,017
平成27年	2,543	5,547	2,607	2,940
平成28年	2,495	5,387	2,538	2,849
平成29年	2,476	5,291	2,484	2,807
平成30年	2,499	5,237	2,451	2,786
令和元年	2,511	5,150	2,422	2,728
令和2年	2,461	5,015	2,367	2,648
令和3年	2,397	4,873	2,304	2,569
令和4年	2,416	4,818	2,266	2,552
令和5年	2,439	4,727	2,208	2,519
令和6年	2,468	4,670	2,164	2,506

佐 呂 間 町 教 育 目 標

森と湖の大自然に育まれた私たち町民は「英知と友愛と勇気」をもって、明るく豊かなまちづくりを目指し、活力ある人間性豊かなたくましい人になるため、この教育目標を制定します。

みずか まな
自 ら 学 び

と も に みが あ
磨 き 合 い

ひろ こころ
広 い 心 と

い
生 き が い を も ち

ふ る さ と を あい
愛 す る

た く ま し い サ ロ マ びと
人

(平成7年1月1日制定)

■ 解 説

佐呂間町は、開拓以来、心豊かな人づくりを目指し、明るく平和な町づくりの創造に、英知と友愛と勇気をもって励んできました。

これからは、新しい時代に向けて、創造的に富む知性豊かな人になるために自ら学ぶ姿勢をもち、考え、行動することが求められます。

また、自然や文化に親しみ、美しさや優しい心など、豊かな情操を培うとともに、広い心で人々と交流し、ともに磨き合い、ふるさとの発展に努めることが必要です。

さらに、町民としての責任と誇りを自覚し、自然の豊かさと調和した産業と文化の町づくりを目指して、ふるさとの発展に励むことが大切です。

そして強い意志をもって、心身を鍛え、明るくたくましく生きるために、生命を尊びふるさとの自然や特性を生かして、積極的に行動する事が望まれています。

ふるさとの21世紀を展望するとき、生涯を通じて学ぶ意欲をもち、町民一人一人が主役となり、生きがいのある生活を築く、「たくましいサロマ人」になることが期待されます。

■ 基本的指標

- 【知】
 - ・自ら学び、創造的に実践する人に
 - ・広い考えで、時代の変化にたくましく対応する人に
 - ・生涯学び続け、生きがいのある人生を築く人に
- 【情】
 - ・自然を愛し、思いやりのある心をもつ人に
 - ・郷土の文化を大切に、豊かな社会をつくる人に
 - ・広い心で、国際社会のためにつくす人に
- 【意】
 - ・責任をもち、自ら進んでやりぬく人に
 - ・勤労に喜びをもち、よりよい生活をする人に
 - ・町民としての誇りをもち、地域の発展に努める人に
- 【体】
 - ・健康安全に心がけ、進んで心身を鍛える人に
 - ・スポーツに親しみ、活力ある生活をする人に
 - ・生命を尊重し、うるおいのある生き方をする人に

学 校 教 育

学校教育目標

～自ら未来をきり拓き、たくましく生きるために～

- 自ら学び 創造力のある人に
- 郷土を愛し 豊かな心をもつ人に
- 進んで働き 最後までやりぬく人に
- 生命を尊び 明るくたくましい人に

(平成7年4月1日改定)

■ 解 説

佐呂間町は、森と湖のまちに相応しい文化の創造のため、多くの困難を乗り越え、開基100年の輝かしい歴史と伝統を築いてきました。この先人の魂を正しく継承し、21世紀を担う子ども達が調和のある発達を期すための目標であります。そして、限りない未来を拓く子どもの心身ともに健全な成長を願い「自ら考え、正しく判断できる人間性豊かなたくましい子ども」の育成を目指しています。

○自ら学び、創造力のある人に

生涯にわたって学び、創造力のある人になるためには、自ら学ぶ意欲や態度を培い基礎的・基本的内容をしっかり身につけることが大切です。

そして、個性を生かしながら思考力・判断力・表現力や情報処理能力など、生きて働く力を培い、時代の変化に対応する積極的な態度や能力を育成することが重要です。

○郷土を愛し、豊かな心をもつ人に

ふるさとを愛し、人を思いやる豊かな心を持つ人になるためには、自然に親しみ、人間尊重の精神や感謝の心を培い、積極的に行動する態度を身につけることが大切です。

そして、広い心と温かい人間性を育て、互いに協力し合い、励まし合って郷土のために尽くす態度や国際社会に適応する能力を育成することが重要です。

○進んで働き、最後までやりぬく人に

仕事に励み、強い意志と実力を持ち、個性豊かな人になるためには自ら考え行動し、自発的に課題を解決していく態度を身につけることが大切です。

そして、積極的に体験する中で、ものごとを深く探求する心を培い、自分の良さを生かしながら、最後まで粘り強くやりぬく力を育成することが重要です。

○生命を尊び、明るくたくましい人に

生命を大切にし、自ら心や体を鍛え、明るく生きる人になるためには、日常的に健康安全に努め、心身を磨き、自ら解決していく態度を身につけることが大切です。

そして、家庭や地域との連携を密にし、生涯にわたって自ら実践するとともに、環境や社会の変化に対応できる態度や能力育成することが重要です。

佐呂間町教育行政推進方針（抜粋）

人口減少社会の到来、ＩＣＴやグローバル化の進展などにより、社会とともに人々の価値観や生活様式、ワークスタイルが大きく変容しています。不透明で予測が困難なこのＶＵＣＡ（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）の時代を、子どもたちが夢や希望を持ち、様々な困難を乗り越え、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手として成長することができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

佐呂間町教育委員会では、「不易流行」の考えを基調とし、国の第４期教育振興基本計画や北海道教育推進計画並びにオホーツク教育推進の重点、佐呂間町教育大綱に基づき、佐呂間町教育目標『自ら学び ともに磨き合い 広い心と 生きがいをもち ふるさとを愛する たくましいサロマ人』の育成を目指し、本町の豊かな自然や歴史、文化を踏まえた地域の特性を活かした取組を進めてまいります。

以下、各項目にわたりご説明申し上げます。

◎学校教育の推進

1. 義務教育９年間を見通した教育（「０歳から１８歳を見通した教育」の一環）の推進

小中学校においては、令和７年度から現在の学校は存続しつつ小中学校９年間連続した教育課程を編成する「併設型小中一貫校」を導入し、中１ギャップ解消や学力向上など教育力の向上を目指します。

令和５年度に策定した「佐呂間町小中一貫教育推進事業実施要綱」に基づき令和６年度に「佐呂間町小中一貫教育基本方針」を示すとともに「佐呂間町小中一貫教育推進委員会」を設置し、基本方針に掲げた「思いを伝え合い 豊かに未来を創る子」「認め合い 励まし合える子」「健康な心と体を持ち やり遂げられる子」という３つの目指す子ども像の実現に向かい、義務教育９年間を見通した各教科・特別活動のカリキュラムによる教育活動を展開します。

2. 確かな学力の育成

令和２年度から新しい学習指導要領に基づく教育課程が順次実施され、小学校は６年目、中学校は５年目を迎えます。現行の学習指導要領では、各教科等において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱に整理しています。

各学校においては、この資質・能力の確実な育成に向けて、「個別最適な学び」と「協同的な学び」という観点から捉え直すとともに、ＩＣＴの新たな可能性を指導に生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めてまいります。

また、児童生徒に、より専門的な授業を行うとともに小学校教員の空き時間を確保するため、令和６年度から取り組んでいる佐呂間中学校に配置される加配教員による高学年の一部専科制に継続して取り組みます。

3. 特別支援教育の充実

令和5年度から2年間、国立特別支援教育総合研究所の研究協力機関となり協議を重ねてきた成果をもとに、多様性を理解し尊重できる共生社会の担い手となる子どもたちを地域とともに育むことを根底に位置付けた教育活動を展開してまいります。

特別支援員は引き続き全ての学校に配置し、個別の指導計画に基づく児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援を確実に行ってまいります。

佐呂間小学校の通級指導教室（ことばの教室）においては、若佐小学校・浜佐呂間小学校・佐呂間中学校への巡回指導も継続し、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒のため、一人ひとりに応じた支援に努めてまいります。

4. 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育を推進し、社会に根差したウェルビーイングの向上を実現させることが強く求められています。

この実現に向けて、道徳教育はもとより、将来どこに住むことになったとしても、いつまでも「ふるさと佐呂間町」に思いを馳せることを願い、佐呂間町にゆかりのある社会人による授業に引き続き取り組んでまいります。

いじめ・不登校などの問題については、子どもたちの些細な変化を見逃さず、保護者の悩みに向き合うため、スクールカウンセラーや令和6年度に設置した「佐呂間町教育支援センター」による心のケアや相談・支援の充実などを継続してまいります。

5. 学校給食と心身の健やかな成長

子どもたちの心身の健全な発達の源である学校給食は、栄養教諭による食育とともに、佐呂間町の生產品の活用を第一に、地産地消の取組を推進することで、おいしく安心安全な「佐呂間町ふるさと給食」を提供するとともに、「給食だより」などを通じ、食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度の育成など、キャリア教育の一端を担ってまいります。

食物アレルギーの対応については、すべての児童生徒が給食時間を安全に、かつ、楽しんで過ごせるよう医師の診断に基づくアレルギー対応食を提供してまいります。

児童生徒の給食費については引き続き無償化とし、子育て支援を図ってまいります。

また、子どもたちが自ら進んで運動する習慣の定着に引き続き取り組んでまいります。

6. 働き方改革の推進及び部活動の地域移行

質の高い教育を展開するためには、教員がやりがいを感じ、子どもたちと向き合う時間を確保することが重要です。

「学校における働き方改革佐呂間町アクションプラン」に基づきこれまで展開してきた様々な取組をより一層前進させてまいります。

また、部活動の地域移行は、未来を担う子どもたちが、持続可能な形で多様な活動を行うことで、子どもたち自身の可能性を引き出すとともに、将来の選択肢を広げることができるよう、部活動指導員を継続配置しつつ、地域の皆様の理解と協力を求めながら、地域移行に向けた具体的なあり方について検討を進め、できることから順に取組を進めてまいります。

7. 保小連携（「0歳から18歳までを見通した教育」の一環）

文部科学省の委託事業として令和5年度に北海道のモデル地域として立ち上げた「保小接続カリキュラム開発会議」は、令和6年度末に佐呂間町版の「保小接続カリキュラム（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）」を作成することができました。今後は、これをもとに保育所と小学校の合同授業・合同研修を継続し、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）の教育の充実に引き続き努めてまいります。

8. 佐呂間高等学校支援対策

佐呂間高等学校は、町内唯一の高等学校であります。

今後更に中学生の減少が進むことから、佐呂間高等学校存続の危機意識をよりいっそう強く持たなければなりません。

各種制度などにに基づき、「大学進学者に年額50万円、短期大学・専門学校進学者に年額25万円の支給」「入学生徒に対する一人一律10万円の支給」「卒業後の就職等準備資金一人一律10万円の支給」を継続してまいります。

また、従来から支援している「模擬試験・資格取得検定受験料の全額負担」「部活動遠征費及び体育文化活動費の補助」「夏季・冬季講習会受講補助」の支援も引き続き講じてまいります。

なお、一人でも多くの生徒に佐呂間高等学校への進学を希望してもらうためには、魅力ある高校づくりが肝要です。地域魅力発見事業である「佐呂間高校生フォトコンテスト」を継続するとともに、高等学校存続対策協議会において関係者の皆様と協議を重ねてまいります。

◎社会教育の推進

1. 社会教育の推進

社会教育については、佐呂間町社会教育目標を基底とする第8次佐呂間町社会教育中期計画（令和3～7年度）を踏まえ、町民の自発的・主体的な学習の支援、乳幼児から高齢者までのニーズに応じた幅広い事業展開、交流活動への参加、体験機会の充実に努めるとともに、第9次佐呂間町社会教育中期計画（令和8～12年度）の策定を進めてまいります。

また、学校教育と社会教育がより一層連携し、学校・家庭・地域が深く結びついた社会教育事業を展開してまいります。

芸術・文化は生活を明るく豊かにするものであります。文化講演会や鑑賞事業の開催により、芸術文化に満ち溢れた「まちづくり」を推進し、町内外への情報発信に努めてまいります。

2. 図書館事業の推進

図書館事業については、子どもたちへの絵本の読み聞かせ、成人式での本の贈呈など、本に親しむ取組を引き続き進めてまいります。

また、移動図書館車あおぞら号による巡回、絵本原画展やボランティアサークルによる人形劇公演の開催、子ども向けの工作教室などのイベントの実施により、本への関心の向上や図書館の利用促進に取り組んでまいります。

学校との連携は、学校の図書担当教諭と協力して学校図書室の整理を行い、児童生徒が利用しやすい図書室づくりと読書活動の推進に取り組んでまいります。

このほか、「図書館だより」などにより、図書館情報を広く提供し、図書館サービスの充実に努めてまいります。

3. 社会体育の推進

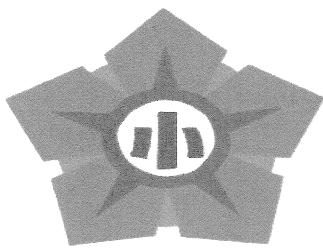
スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものであり、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであります。

そのため、各種スポーツ活動の支援や環境の整備に努め、「生涯スポーツの町宣言」に沿ったスポーツの振興を図ってまいります。

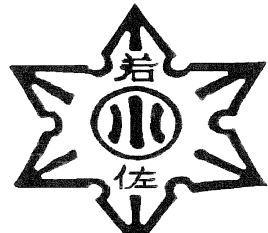
社会体育の中核施設である武道館・温水プールについては、指導の充実に図り、町民の体力・健康づくりの場として様々な事業に取り組んでまいります。

◎教育関係施設の整備

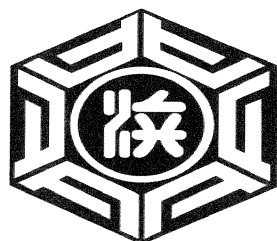
学校、図書館、給食センター、武道館・温水プールなどの教育関係施設の整備については、令和3年度からスタートした「第5期佐呂間町総合計画」を基本として、限られた財源を効果的に活用しながら、より長く活用できる施設整備に取り組んでまいります。

佐 呂 間 小 学 校					校 章		
所 在 地							
創 立 年 月 日							
沿 革	平成18年 4月 1日		佐呂間町学校再編成により旧佐呂間小・知来小・仁倉小・若里小・富武士小が、新「佐呂間小学校」として開設される				
	平成19年 4月 9日		佐呂間町学校給食センター開設により給食開始				
	平成21年 4月		二学期制実施				
	平成25年 4月		言語障害通級指導教室（ことばの教室）開設				
教 職 員 等	校 長	池 田 潤		教 諭	後 藤 理 奈	言語通級	
	教 頭	時 田 雅 子		教 諭	久 保 と も 子	言語通級	
	教 諭	尾 関 由 未 奈	1 年	教 諭	阿 部 翔 平	専 科	
	教 諭	岩 本 昂 己	2 年	教 諭	水 口 志 穂	育 休	
	教 諭	山 内 蒼 真	3 年	養 護 教 諭	近 藤 紫 保		
	教 諭	大 矢 貴 博	4 年	栄 養 教 諭	大 島 智 恵		
	教 諭	佐 野 圭 介	5 年	事 務 主 幹	八 木 崇		
	教 諭	坂 本 香 織	6 年	公 務 補	富 田 正 之		
	教 諭	菅 芳 香	学習室	特 別 支 援 員	宮 崎 美 知 子		
	教 諭	岩 田 治	学習室	特 別 支 援 員	天 野 朋 子		
	教 諭	工 藤 学	学習室	特 別 支 援 員	本 田 ま ゆ み		
	教 諭	齊 藤 亜 希 子	学習室	特 別 支 援 員	堀 内 靖 子		
	教 諭	吉 田 康 祐	学習室	特 別 支 援 員	宮 崎 由 佳		
	教 諭	泉 ま ど か	学習室				
	教 諭	佐 藤 駿 世	学習室				
	教 諭	江 口 千 裕	言語通級				
児 童 数	学 年	児童数	学級数	学 年	児童数	学級数	
	1 年	20	1	5 年	16	1	
	2 年	10	1	6 年	18	1	
	3 年	21	1	特 別 支 援	13	6	
	4 年	11	1	合 計	109	12	
学 校 運 営 協 議 会	鈴 木 身 江 子		杉 山 友 洋	船 木 英 理 子	池 田 潤	時 田 雅 子	
P T A	会 長	杉 山 友 洋		事 務 局	時 田 雅 子（教頭）		
	副 会 長	河 井 裕 樹		会 計	鹿 島 裕 明		
	副 会 長	藤 崎 康 平		会 計	八 木 崇（事務）		
	事 務 局 長	惣 田 正					

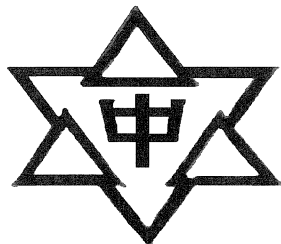
教育目標	わたしたちは、 ふるさとの 大地に立つ 伸びゆく サロマの子です。 ・すすんで まなぶ子 ・たすけあう やさしい子 ・げんきで たくましい子																																																																																																																						
重点目標	自分から「まなぶ!」「おもいやる!」「きたえる!」																																																																																																																						
研究主題	子どもたちが自ら学ぶ授業を創る ～自己肯定感を高めるための授業実践～																																																																																																																						
基本的な日課	<table><tr><td></td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td></tr><tr><td>8:05</td><td>登校</td><td>登校</td><td>登校</td><td>登校</td><td>登校</td></tr><tr><td></td><td>朝学習</td><td>朝学習</td><td>朝学習</td><td>朝学習</td><td>朝学習</td></tr><tr><td>8:25</td><td>学級朝の会</td><td>学級朝の会</td><td>学級朝の会</td><td>学級朝の会</td><td>学級朝の会</td></tr><tr><td>8:35</td><td>1時間目</td><td>1時間目</td><td>1時間目</td><td>1時間目</td><td>1時間目</td></tr><tr><td>9:20</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>9:25</td><td>2時間目</td><td>2時間目</td><td>2時間目</td><td>2時間目</td><td>2時間目</td></tr><tr><td>10:10</td><td>自由遊び 業間活動</td><td>自由遊び 業間活動</td><td>自由遊び 業間活動</td><td>自由遊び 業間活動</td><td>自由遊び 業間活動</td></tr><tr><td>10:30</td><td>3時間目</td><td>3時間目</td><td>3時間目</td><td>3時間目</td><td>3時間目</td></tr><tr><td>11:15</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>11:20</td><td>4時間目</td><td>4時間目</td><td>4時間目</td><td>4時間目</td><td>4時間目</td></tr><tr><td>12:05</td><td>給食</td><td>給食</td><td>給食</td><td>給食</td><td>給食</td></tr><tr><td>12:45</td><td>昼休み</td><td>昼休み</td><td>昼休み</td><td>昼休み</td><td>昼休み</td></tr><tr><td>13:05</td><td>清掃</td><td>清掃</td><td>清掃</td><td>清掃</td><td>清掃</td></tr><tr><td>13:25</td><td>5時間目</td><td>5時間目</td><td>5時間目</td><td>5時間目</td><td>5時間目</td></tr><tr><td>14:10</td><td>学級帰りの会</td><td>学級帰りの会</td><td>学級帰りの会</td><td>学級帰りの会</td><td>帰りの会 移動</td></tr><tr><td>14:15</td><td>6時間目</td><td>6時間目</td><td rowspan="3"></td><td>6時間目</td><td>14:25 クラブ活動 児童委員会</td></tr><tr><td>15:00</td><td>学級帰りの会</td><td>学級帰りの会</td><td>学級帰りの会</td><td>15:10</td></tr><tr><td>15:15</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>15:30</td><td>最終下校</td><td>最終下校</td><td>最終下校</td><td>最終下校</td><td>最終下校</td></tr></table>		月	火	水	木	金	8:05	登校	登校	登校	登校	登校		朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	8:25	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会	8:35	1時間目	1時間目	1時間目	1時間目	1時間目	9:20						9:25	2時間目	2時間目	2時間目	2時間目	2時間目	10:10	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	10:30	3時間目	3時間目	3時間目	3時間目	3時間目	11:15						11:20	4時間目	4時間目	4時間目	4時間目	4時間目	12:05	給食	給食	給食	給食	給食	12:45	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	13:05	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃	13:25	5時間目	5時間目	5時間目	5時間目	5時間目	14:10	学級帰りの会	学級帰りの会	学級帰りの会	学級帰りの会	帰りの会 移動	14:15	6時間目	6時間目		6時間目	14:25 クラブ活動 児童委員会	15:00	学級帰りの会	学級帰りの会	学級帰りの会	15:10	15:15					15:30	最終下校	最終下校	最終下校	最終下校	最終下校
	月	火	水	木	金																																																																																																																		
8:05	登校	登校	登校	登校	登校																																																																																																																		
	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習																																																																																																																		
8:25	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会	学級朝の会																																																																																																																		
8:35	1時間目	1時間目	1時間目	1時間目	1時間目																																																																																																																		
9:20																																																																																																																							
9:25	2時間目	2時間目	2時間目	2時間目	2時間目																																																																																																																		
10:10	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動																																																																																																																		
10:30	3時間目	3時間目	3時間目	3時間目	3時間目																																																																																																																		
11:15																																																																																																																							
11:20	4時間目	4時間目	4時間目	4時間目	4時間目																																																																																																																		
12:05	給食	給食	給食	給食	給食																																																																																																																		
12:45	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み																																																																																																																		
13:05	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃																																																																																																																		
13:25	5時間目	5時間目	5時間目	5時間目	5時間目																																																																																																																		
14:10	学級帰りの会	学級帰りの会	学級帰りの会	学級帰りの会	帰りの会 移動																																																																																																																		
14:15	6時間目	6時間目		6時間目	14:25 クラブ活動 児童委員会																																																																																																																		
15:00	学級帰りの会	学級帰りの会		学級帰りの会	15:10																																																																																																																		
15:15																																																																																																																							
15:30	最終下校	最終下校	最終下校	最終下校	最終下校																																																																																																																		
校歌	三 汐の香匂う 佐呂間の湖に 大きな夢を 語りつつ 育つ心を 大切に みんなで学ぼう 佐呂間小 二 花も草木も 小鳥の声も みんなやさしく 包み合う 自然の息吹 受けとめて みんなで歩もう 佐呂間小 一 朝は輝く 光を浴びて 希望を胸に 通う路 声かけ合って 手を結び みんなで創ろう 佐呂間小 佐呂間小学校校歌 作詞 作曲 松田 彰光																																																																																																																						

若 佐 小 学 校					校 章		
所 在 地		常呂郡佐呂間町字中園 3 8 番地の 1					
創 立 年 月 日		平成 1 8 年 4 月 1 日					
沿 革	平成 1 8 年 4 月 1 日		佐呂間町学校再編成により、旧栄小学校と若佐小学校が、新「若佐小学校」として開設される				
	平成 1 8 年 4 月 6 日		開校式 校旗・校章制定				
	平成 1 8 年 7 月 2 7 日		旧若佐中学校校舎へ移転				
	平成 1 8 年 8 月 2 1 日		校門除幕式				
	平成 1 9 年 4 月 9 日		佐呂間町学校給食センター開設により給食開始				
	平成 2 1 年 4 月		二期制実施				
教 職 員 等	校 長	風 間 直 樹			養 護 教 諭	黒 瀧 由希子	
	教 頭	橋 場 哉 子			事 務 職 員	大 崎 みゆき	
	教 諭	武 本 太	1・2 年	公 務 補	本 間 篤 史		
	教 諭	井 上 夕 紀	3・4 年	特 別 支 援 員	村 山 知 佐		
	教 諭	三 野 愛 莉	5・6 年	時 間 講 師	田 村 巧		
	教 諭	齋 藤 文 枝	自情学級	時 間 講 師	岩 城 巖		
	教 諭	落 合 真奈美	知的学級	時 間 講 師	五 十 嵐 智		
児 学 童 級 数 数	学 年	児 童 数	学 級 数	学 年	児 童 数	学 級 数	
	1 年	3	1	5 年	4	1	
	2 年	1		6 年	8		
	3 年	2	1	特 別 支 援	3	2	
	4 年	3		合 計	24	5	
学 校 運 営 協 議 会 委 員	佐々木 孝三郎		田 宮 英 明	阿 部 隆 文	谷 口 元 気		風 間 直 樹
P T A	会 長	谷 口 元 気			会 計	十 亀 由美子	
	副 会 長	田 宮 拓 郎			会 計	大 崎 みゆき	
	副 会 長	川 又 崇 史			事 務 局 長	橋 場 哉 子	
	副 会 長	近 藤 由 美					

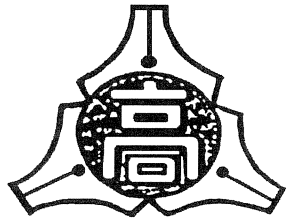
教 育 目 標	☐ 考える子 (知) 【 本 気 】 ・自ら学び、創り出す ☐ 助け合う子 (徳) 【 勇 気 】 ・自他の立場を考え、協力する ☐ 強い体の子 (体) 【 根 気 】 ・心身ともに健康でたくましく最後までやりぬく		
重 点 目 標	『つなげよう、つながろう！』		
研 究 主 題	課題に向かって根気強く取り組む子どもの育成 ～自分の考えをもち、子どもたちが意欲的に取り組む授業構成～		
基本的な日課	児童登校 ~ 8 : 0 0 朝の活動・朝の会 8 : 0 0 ~ 8 : 2 0 1 校 時 8 : 2 0 ~ 9 : 0 5 2 校 時 9 : 1 0 ~ 9 : 5 5 中 休 み 9 : 5 5 ~ 1 0 : 1 0 3 校 時 1 0 : 1 5 ~ 1 1 : 0 0 4 校 時 1 1 : 0 5 ~ 1 1 : 5 0 昼 食 1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 3 5 昼休み・清掃 1 2 : 3 5 ~ 1 2 : 5 0 5 校 時 1 2 : 5 5 ~ 1 3 : 4 0 帰りの会 1 3 : 4 0 ~ 1 3 : 5 0 6 校 時 1 3 : 5 0 ~ 1 4 : 3 5 各種活動 1 4 : 3 5 ~ 1 4 : 5 0 児童下校 1 4 : 5 0		
校 歌	三 樹花のひかる この庭に 澄みむゆく心 歌として みんな仲よく 正しい子 われらの若佐小学校 二 武士の流れ 水清く 心のちりを 洗いさり 清く素直に 伸びゆく子 われらの若佐小学校 一 朝空あおく 風かおり 緑に映える 佐呂間山 みんな明るい 元気な子 われらの若佐小学校 若佐小学校校歌 小林幸男 作詞 大野恒一 作曲		

浜 佐 呂 間 小 学 校					校 章			
所 在 地		常呂郡佐呂間町字浜佐呂間 1 6 7 番地						
創 立 年 月 日		平成 1 8 年 4 月 1 日						
沿 革	平成 1 8 年 4 月 1 日		学校再編成により旧浜佐呂間小学校区，旧幌岩小学校区を合併し、新「浜佐呂間小学校」として設立					
	平成 1 8 年 4 月 6 日		開校式 校旗・校歌制定 4 学級 3 5 名					
	平成 1 9 年 4 月 9 日		佐呂間町学校給食センター開設により給食開始					
	平成 2 1 年 4 月		二学期制実施					
教 職 員 等	校 長	中 垣 孝			事 務 職 員	小 野 夏 花		
	教 頭	上 野 さえ子			公 務 補	桜 井 茂		
	教 諭	樋 口 誠		特別支援	特別支援員	神 崎 律 子		
	教 諭	岩 本 和 侑		1 年	時 間 講 師	岩 城 巖		
	教 諭	畠 山 泰 彦		3・4 年	時 間 講 師	野 村 陽 子		
	教 諭	山 田 純 子		5・6 年	時 間 講 師	五十嵐 智		
	養 護 教 諭	林 由美子			学校支援員	宮 島 千 秋		
児 学 童 級 数 数	学 年	児 童 数		学 級 数	学 年	児 童 数		学 級 数
	1 年	2		1	5 年	2		1
	2 年	0		0	6 年	3		
	3 年	3		1	特 別 支 援	1		1
	4 年	1			合 計	12		4
学 校 運 営 会 協 議 会	諸 岡 和 正		松 永 義 一		土 門 伸 介		中 垣 孝	上 野 さえ子
P T A	会 長	土 門 伸 介			生 活 部 長	齊 藤 直 哉		
	副 会 長	堀 米 拓 也			文 化 部 長	諸 岡 篤 史		
	監 査	村 岡 和 枝			事 務 局 長	上 野 さえ子		
	監 査	若 狭 和 記			会 計	小 野 夏 花		

教 育 目 標	明日の郷土を拓くたくましい子ども 学ぶ子 心豊かな子 健やかな子			
重 点 目 標	『つながって、みんなで伸びる』			
研 究 主 題	主体的に学び、考え方を伝え合い、深め合うことのできる子どもの育成 ～効果的な I C T 機器の活用実践を目指して～			
基 本 的 な 課 日	職員出勤	8 : 0 0		
	児童登校	8 : 0 5		
	職員朝会・朝学習	8 : 0 5	～	8 : 2 5
	朝 の 会	8 : 2 5	～	8 : 3 5
	1 校 時	8 : 3 5	～	9 : 2 0
	2 校 時	9 : 2 5	～	1 0 : 1 0
	3 校 時	1 0 : 3 0	～	1 1 : 1 5
	4 校 時	1 1 : 2 0	～	1 2 : 0 5
	給 食	1 2 : 0 5	～	1 2 : 4 5
	清 掃	1 2 : 4 5	～	1 3 : 0 0
	昼 休 み	1 3 : 0 0	～	1 3 : 2 0
	5 校 時	1 3 : 2 0	～	1 4 : 0 5
	6 校 時	1 4 : 1 0	～	1 4 : 5 5
	帰りの会	1 4 : 5 5	～	1 5 : 0 5
	下 校	1 5 : 1 5		
校 歌	三 二 一 浜佐呂間小学校校歌 作詞・作曲 松田 彰光 木々のざわめき 背に受けて 笑み交わし 集う庭 仲間の絆 伝えつつ 創ろう我等の 浜佐呂間小学校 広き海原 オホーツク 波は奏でる 楽の音を 明日の夢に 羽ばたこう 創ろう我等の 浜佐呂間小学校 夕日に映える サロマ湖は 清き心を 写しだす 尊き知恵を 学びつつ 創ろう我等の 浜佐呂間小学校			

佐 呂 間 中 学 校					校 章					
所 在 地		常呂郡佐呂間町字幸町 9 番地の 1								
創 立 年 月 日		昭和 2 2 年 5 月 1 日								
沿 革	昭和 2 2 年 5 月 1 日		佐呂間村立中佐呂間中学校として開校							
	昭和 2 8 年 4 月 1 日		町制施行・字名変更により佐呂間町立佐呂間中学校と改称							
	昭和 4 0 年 4 月 1 日		若里中学校・知来中学校・富武士中学校を統合							
	昭和 4 1 年 4 月 1 日		仁倉中学校を統合							
	平成 1 1 年 4 月 1 日		幌岩中学校を統合							
	平成 1 8 年 4 月 1 日		若佐中学校・浜佐呂間中学校を統合							
教 職 員 等	校 長	太 田 依 里			教 諭	湯 澤 栞	知 的			
	教 頭	畑 中 将 志			教 諭	渡 辺 慎 司	情 緒			
	教 諭	伊 藤 浩 司		1 A 第一担	時 間 講 師	佐 伯 文 子				
	教 諭	小 貫 文		1 A 第二担	養 護 教 諭	小 杉 い お り				
	教 諭	古 舘 遼		1 A 第二担	事 務 職 員	奈 須 野 由 佳				
	教 諭	清 水 陽 介		2 A 第一担	公 務 補	中 村 宏				
	教 諭	藤 田 洋 平		2 A 第二担	特 別 支 援 員	笹 川 里 美				
	教 諭	河 崎 寛 多		2 A 第二担	特 別 支 援 員	安 藤 由 紀 恵				
	教 諭	大 浦 泰 廣		3 A 第一担	特 別 支 援 員	津 村 接 美				
	教 諭	西 野 詩 織		3 A 第二担	特 別 支 援 員	中 谷 乃 彩				
	教 諭	村 上 史 明		3 A 第二担	育 休	ホーランド 淑 恵				
	教 諭	滝 口 翔 平		3 A 第二担	産 休	酒 井 奈 央				
	教 諭	湯 川 真		知 的	休 職	谷 口 詩 歩				
	教 諭	浜 田 尚 明		情 緒						
生 学 徒 級 数 数	学 年	生 徒 数		学 級 数	部 活 動 の 状 況					
	1 年	22		1	野球部 ・ サッカー部 男女バスケットボール部 男女バレーボール部 バドミントン部・吹奏楽部					
	2 年	40		1						
	3 年	30		1						
	特 別 支 援	12		2						
	合 計	104		5						
学 校 運 営 協 議 会 委 員	関 東 正 浩		河 井 裕 樹		大 谷 宏 明		太 田 依 里		畑 中 将 志	
P T A	会 長		河 井 裕 樹			副 会 長		杉 山 友 洋		
	副 会 長		本 田 浩 之			監 査		井 田 喜 一 朗		
	監 査		土 門 昌 子			事 務 局 長		畑 中 将 志		

教 育 目 標	ともに磨き合い、たくましく生きる人を育む ・進んで学ぶ生徒（知） ・思いやりのある生徒（徳） ・たくましい生徒（体）			
経 営 の 重 点	1 重点教育目標 『学びでつながり、未来を拓く 佐中生』 ＊主体的に学び合い、高め合う力を育む 論理的思考力を基盤とし、課題解決に向けて主体的に学ぶ力を育成する。 他者との対話を通じて、知識を深化させる学びを推進する。 ＊広い心を持ち、地域とつながる力を育む 他者を尊重し、協力して課題を解決する協調性やコミュニケーション能力を培う。 地域社会との連携を深め、ふるさとを愛する心を育成する。 ＊たくましく生きる力を育む 健全な心身を鍛え、挑戦する意志と忍耐力を育てる。 2 運営の重点と方策 (1)「学びでつながる授業と自己の成長」 (ICT を活用した効果的な授業づくりを進め、小中で一貫した論理的思考力の育成を目指す) ① ICT を活用した授業改善 ② アクティブ・ラーニングの充実 ③ 小中一貫の学習指導の工夫 (2)「心でつながる仲間と地域」 (小中の教育活動をつなぎ、共通の目標を持って支え合い、地域とのつながりを重視した活動を展開する) ① 異学年交流・縦割り活動の充実 ② 地域と連携した学習の強化 ③ ボランティア活動・社会貢献活動の推進 (3)「未来をつなぐたくましい自分」 (挑戦し続ける意志を育てる教育を行い、変化の多い社会に対応できる柔軟性と自立心を養う) ① チャレンジ精神を育む取り組み ② キャリア教育の充実 ③ 健康・体力づくりの推進			
研 究 主 題	主体的に学び、学びを定着させる生徒の育成を目指して ～生徒が動き、学びが生きる授業改善の工夫～ 単年計画			
基本的な日課	朝読書	8 : 1 0 - 8 : 1 5	昼休み	1 2 : 5 0 - 1 3 : 0 5
	短学活	8 : 1 5 - 8 : 2 0	5校時	1 3 : 1 0 - 1 4 : 0 0
	1校時	8 : 3 0 - 9 : 2 0	6校時	1 4 : 1 0 - 1 5 : 0 0
	2校時	9 : 3 0 - 1 0 : 2 0	短学活	1 5 : 0 5 - 1 5 : 1 5
	3校時	1 0 : 3 0 - 1 1 : 2 0	清 掃	1 5 : 1 5 - 1 5 : 3 0
	4校時	1 1 : 3 0 - 1 2 : 2 0	下 校	1 5 : 3 0
	昼 食	1 2 : 2 0 - 1 2 : 5 0		
校 歌	三、 嵐にめげず 雪こえて 真実に生さん若人が 唇 固く 眉あけて 踏みゆく大地下萌えん 二、 湖白く 風落ちて 星もほえむ 夕なぎに 幸ある日々をたたえつつ 肩くみかわすわれらなり 一、 連峰はるか雲もえて 光さやけき 朝空に 希望あふるる窓あけて 建てるは佐呂間中学校 佐呂間中学校校歌 作 詞 飯田 広太郎 作 曲 千葉 日出城			

北海道佐呂間高等学校				校章		
所在地	常呂郡佐呂間町字北311番地の1					
創立年月日	昭和23年11月25日					
沿革	昭和23年11月25日	道立遠軽高等学校佐呂間分校として開校（定時制）				
	昭和26年 4月 1日	佐呂間村立佐呂間高等学校となる				
	昭和28年 4月 1日	町制施行により佐呂間町立佐呂間高等学校となる				
	昭和30年 4月 1日	農業科設置				
	昭和37年 4月 1日	全日制課程新設				
	昭和39年 3月31日	道立移管 北海道佐呂間高等学校となる				
	昭和54年 2月28日	定時制閉課				
	昭和55年10月10日	創立30周年記念式典・校舎改築落成記念式典				
	昭和58年 3月 7日	網走管内教育実践表彰受賞				
	昭和58年 9月22日	網走管内社会福祉事業功労賞（団体）受賞				
	昭和59年 2月10日	北海道教育実践表彰受賞				
	平成元年12月15日	屋内体育館完成（966.48㎡）				
	平成3年 4月 1日	全日制普通科1間口減、2間口となる				
	平成10年 3月 1日	校訓制定				
	平成10年10月18日	創立50周年記念式典挙行				
	平成11年 2月 7日	平成10年度網走管内教育実践表彰受賞				
	平成13年 2月 5日	平成12年度北海道社会貢献賞を受賞				
	平成19年11月15日	平成19年度全国学校体育研究優良校表彰受賞				
	平成20年 7月 3日	北海道教育委員会環境教育プロジェクト校指定				
	平成22年 6月22日	北海道教育委員会「高1クライシス未然防止事業」指定				
平成26年 4月 1日	全日制普通科1間口減、1間口となる					
平成27年 4月 1日	北海道教育委員会より「地域キャンパス校」の指定を受ける					
平成30年 4月 1日	北海道教育委員会より「地域連携特例校」の指定を受ける					
令和3年 4月 1日	北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）より遠隔授業の配信を受ける					
令和7年 7月10日	パーマ高校姉妹校提携35周年記念式典					
職員等	校長	宮崎 勉		教諭	原 子 俊 介	3・A担任（国語）
	教頭	佐々木 義人		教諭	長 堀 太 一	（数学）
	事務長	岩 城 亮 助		教諭	稲 村 拓 海	（英語）
	教諭	近 藤 秀 治	（保健体育）	養護教諭	後 藤 里 緒	
	教諭	長 野 智 幸	1・A担任（理科）	事務主任	南 出 正 人	
	教諭	小山田 裕子	（商業）	主事（非常勤）	大 橋 紘 子	
	教諭	竹 岡 綾 子	（家庭）			
	教諭	橋 本 結 衣	（音楽）			
教諭	法 邑 亘 祐	2・A担任（地公）				
生徒数	学 年	生徒数	学級数	部 活 動 の 状 況		
	1 年	21	1	サッカー	吹奏楽局	
	2 年	23	1	テニス	放送局	
	3 年	20	1	バドミントン		
	合 計	64	3	バスケットボール		
学校運営協議会委員	大 谷 宏 明	井 上 和 明	野 津 哲 弥	近 藤 朋 典	太 田 依 里	
	土 本 千 晶	池 田 潤	藤 川 直 美	杉 森 英 一	宮 崎 勉	

P T A	会 長	野 津 哲 也	会 計	山 下 智 喜
	副会長	早 坂 浩 一	会 計	岩 城 亮 助
	監 事	藤 崎 康 平	事務局長	佐々木 義 人
校 訓	郷湖大地に学び自らの道を拓け			
教 育 目 標	1 自主性を高め、創造的な知性を持つ人となる。 2 豊かな情操を持ち、礼儀正しい人となる。 3 勤労を尊び、奉仕を喜ぶ人となる。 4 生命の尊さを知り、健康でたくましい人となる。			
教育の方針	1. スクール・ミッション（本校の使命） (1) 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の課題を主体的に考え、未来を創っていく生徒の育成 (2) サロマ湖を擁する豊かな自然の中で、人とのつながりを大切に、進路実現を目指して地道に努力する生徒の育成 2. スクール・ポリシー（3つの方針） ○育成を目指す資質・能力に関する方針（卒業時に身に付ける力） ・幅広い知識、社会人基礎力を身に付け、自らの進路や社会の未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた人物の育成を目指します。 ○教育課程の編成および実施に関する方針（教育方針） ・確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に対応する力を養うため、次の教育を行います。 (1) 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業により、確かな学力を（※1）育みます。 ※1 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力 (2) 探究的な教育活動によるキャリア教育を展開し、社会人基礎力を（※2）養成します。 ※2 ①自ら挑戦する力 ②最後までやり通す力 ③他者と協働する力 (3) 地域の教育資源を活用し、未来を担う多様で人間性豊かな人材を、地域と共に育成します。 (4) 地域連携校のメリットを活かし、I C Tを活用した遠隔授業や他校との合同学習の機会を充実させ、協働的な学びを推進します。 (5) きめ細やかで個別最適な学習指導により、生徒の良さや可能性を引き出し、希望進路の実現を目指します。			
研 究 主 題	きめ細かな指導と確かな学力の向上を図ることにより、質の高い魅力ある教育活動を展開する。また、家庭・地域との連携、町の活性化に参画し、地域の期待に応える学校づくりを行う。			
基本的な日課	SHR 8 : 3 0 ~ 8 : 4 0 昼 食 1 2 : 4 0 ~ 1 3 : 1 5 1校時 8 : 5 0 ~ 9 : 4 0 5校時 1 3 : 1 5 ~ 1 4 : 0 5 2校時 9 : 5 0 ~ 1 0 : 5 0 6校時 1 4 : 1 5 ~ 1 5 : 0 5 3校時 1 0 : 5 0 ~ 1 1 : 5 0 SHR 1 5 : 0 5 ~ 1 5 : 1 5 4校時 1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 4 0 清 掃 1 5 : 1 5 ~ 1 5 : 3 0			
校 歌	佐呂間高等学校校歌 大いなる 希望を呼びて 雲青く 流るるところ 明るき窓 遠く開き 若き誇り 毅然たる あゝ高校 わが学舎 遙かなる 佐呂間の湖の 水白く 輝くところ 平和の郷 ここに拓き あふるる力 眉上げて あゝ我等 いざ進まん 北の国 空すみわたり 星聖く またたくところ 真理の道 とわにたずね 尊き使命 果たすべく あゝ高き 我等が理想			

学校教育関係団体

○佐呂間町校長会

会 長	副 会 長	事 務 局 長	会 計
浜佐呂間小学校 中 垣 孝	佐呂間中学校 太 田 依 里	佐呂間小学校 池 田 潤	若佐小学校 風 間 直 樹

○佐呂間町教頭会

会 長	副 会 長	事 務 局 長	会 計
浜佐呂間小学校 上 野 さえ子	佐呂間小学校 時 田 雅 子	佐呂間中学校 畑 中 将 志	若佐小学校 橋 場 哉 子

○佐呂間町小中一貫教育推進委員会

会 長	備 考
佐呂間小学校校長 池 田 潤	

○佐呂間町特別支援教育推進協議会

会 長	事 務 局	備 考
若佐小学校 風 間 直 樹	若 佐 小 学 校	

○佐呂間町複式教育研究連盟

委 員 長	事 務 局	備 考
若佐小学校 風 間 直 樹	若 佐 小 学 校	

統合校の沿革

○栄小学校（平成18年 若佐小学校へ再編）

栄小学校校歌（作詞：河合義巳・作曲：河本二三夫）	沿	革
旭峠の雪解の水を よせ流れる佐呂間の川の 岸辺にて芽える福寿草の 冬を忽ちだす花開く力 明けて教えぬ花開く 北斗の恵みを夜露につけて 高い理想を示して立ち上 とど松林に希望の光りた 強く正しく伸び行く道に ひびくまなびの庭の鐘に めぐる山脈錦がはえて見 学びの実をさながるる 黄金のなみうつ山峡の郷 永久的なあわせ求めて励 進む栄小学校	明治 4 3 年 1 1 月 1 日	沙溜澗教育所所属「下佐呂間教授所」として開設
	大正 3 年 6 月 2 4 日	武士教育所付属に所属変更
	大正 4 年 3 月 2 5 日	上佐呂間尋常小学校に昇格
	大正 1 2 年 4 月 5 日	高等科を併置し上佐呂間尋常高等小学校となる
	昭和 1 6 年 4 月 1 日	上佐呂間国民学校と改称
	昭和 2 2 年 4 月 1 日	新学制施行により佐呂間村立上佐呂間小学校となる
	昭和 2 2 年 5 月 1 日	佐呂間村立上佐呂間中学校を併置
	昭和 2 3 年 4 月 1 日	分村により若佐村立上佐呂間小中学校となる
	昭和 2 4 年 1 1 月 1 日	中学校が若佐中学校に統合し若佐中学校上佐呂間分校となる
	昭和 2 7 年 3 月 3 1 日	若佐中学校上佐呂間分校が廃止され上佐呂間小学校となる
	昭和 3 0 年 4 月 1 日	字名変更により栄小学校と改称
昭和 3 1 年 9 月 3 0 日	佐呂間町との合併により佐呂間町立栄小学校となる	

○知来小学校（平成18年 佐呂間小学校へ再編）

知来小学校校歌（作詞：鷺頭信五・作曲：三島通敏）	沿			革
三二一 そ真才ほ修光群紅励燃流青 の事ホえめるれ黄みえれい 名一ーる磨夕なの学るも山 称途ツ北か風く錦ば朝響垣 えにク風のん身の稔う んの潮凍る穂知仰学 君よとる穂知来ぎび土 知来吾と道校校見舎 校れざす夜も	明治41年	1月31日	鑑沸簡易教育所分校川口教授所 付属「智来第1特別教授所」と して開設	
	明治41年	4月1日	沙溜澗教育所に所属変更	
	大正3年	3月1日	智来教授所に昇格	
	大正4年	9月8日	智来尋常小学校に昇格	
	大正4年11月	1日	知来尋常小学校と改称	
	昭和16年	4月1日	知来国民学校と改称、高等科併 置	
	昭和22年	4月1日	新学制施行により佐呂間村立知 来小学校となる	
	昭和22年	5月1日	佐呂間村立知来中学校を併置	
昭和28年	4月1日	町制施行により佐呂間町立知来 小中学校となる		
昭和41年	4月1日	中学校が佐呂間中学校に統合と なり知来小学校となる		

○仁倉小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

仁倉小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：渡部三郎）	沿	革
三 二 一 わあ強た穿 れあくぎて ら果るば わた力ま れ鍛さを噴 らえん地く がて友に水 仁はよ見脈 倉遅わの 校しれ き わあ寄光拓 れあれるけ らば湖て わ親水遠 れ敬しをき ら愛きを野 がは友にの 仁美よ見末 倉しわてに 校きれ わあ学そ流 れあぶよれ ら日ぎに わ毎明沿 れ憧のるえ られ友くる がはよ窓青 仁潔わに柳 倉られ見の 校け て き	明治３６年	９月２７日 鑑沸簡易教育所分校「川口教授所」として開設（浜佐呂間）
	明治３９年	９月１５日 現仁倉に移転
	明治４１年	４月 １日 沙溜澗教育所に昇格
	明治４３年	１１月 １日 下佐呂間尋常小学校に昇格
	大正１１年	９月２０日 補習科併置
	大正１５年	４月 １日 高等科を併置し下佐呂間尋常高等小学校となる
	昭和 ５年	１月２０日 仁倉尋常高等小学校と改称
	昭和１６年	４月 １日 仁倉国民学校と改称
	昭和２２年	４月 １日 新学制施行により佐呂間村立仁倉小学校となる
	昭和２２年	５月 １日 佐呂間村立佐呂間中学校仁倉分校を併置
	昭和２４年	１０月１１日 仁倉中学校が分校から独立し仁倉小中学校となる
	昭和２８年	４月 １日 町制施行により佐呂間町立仁倉小中学校となる
	昭和４２年	４月 １日 中学校が佐呂間中学校に統合となり仁倉小学校となる

○幌岩小中学校（幌岩中学校 平成１１年 佐呂間中学校へ統合）

（幌岩小学校 平成１８年 浜佐呂間小学校へ再編）

幌岩小中学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：山口祐功）	沿	革
三 二 一 賢ゆ岸広 きう辺き 業べのこ を清あこ らやろ 誓なめは う鐘群さ なりわれろ り牛まり たに湖 の 高枝四学 きを季び 理結のの 想びあ庭 をてらの し 目天にポ 指をつく すなきま は り 若み恵朝 きどみ霧 希望のひれ を丘かし にり 大山 歌うこあ ないまきに りいさけ さみく	明治４２年	４月１０日 沙溜澗教育所付属「幌岩特別教授所」として開設
	大正１３年	９月 日 川口尋常小学校「幌岩特別教授所」となる
	昭和 ５年	１月２０日 川口尋常小学校の校名改称により下佐呂間尋常小学校付属となる
	昭和 ６年	４月 １日 幌岩尋常小学校に昇格
	昭和１６年	４月 １日 幌岩国民学校と改称
	昭和２２年	４月 １日 新学制施行により佐呂間村立幌岩小学校となる
	昭和２６年	４月 １日 下佐呂間中学校幌岩分校を併置
	昭和２８年	４月 １日 幌岩中学校が分校から独立、中佐呂間中学校浪速分校を統合し幌岩小中学校となる 町制施行により佐呂間町立幌岩小中学校となる
	昭和５２年	４月 １日 浪速小学校を統合
	平成１１年	４月 １日 中学校が佐呂間中学校に統合となり幌岩小学校となる

○富富士小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

富富士小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：松田喜一）	沿	革
三 二 一 わ富強松雲 わ富清峠丘 わ富遠朝海 れ武いのを れ武いにの れ武いのに ら士身緑か ら士信雲牧 ら士望潮続 は 体がむ は よも場 は みがいた 果富よ つ 協富 の 学富よ た た武 冴た す武友湧 ぶ武 寄 す士心え 士愛い 草 士あ つ湖 根て大 う あ よ て 萌 新 こ てに ゆあよい る あ い る 新 あ がく るあ るに わ あ る て く あ れる ぎこ こ し こ こ こよ なく に く に に	大正 ４年 ４月 １日 昭和 ３年 ４月 １日 昭和１６年 ４月 １日 昭和１８年 ４月 １日 昭和２２年 ４月 １日 昭和２２年 ５月 １日 昭和２４年１０月１１日 昭和２８年 ４月 １日 昭和４１年 ４月 １日	中佐呂間尋常小学校所属「富富士分教所」として開設 富富士尋常小学校に昇格 富富士国民学校と改称 高等科を配置 新学制施行により佐呂間村立中佐呂間中学校富富士分校を併置 佐呂間村立中佐呂間中学校富富士分校を併置 富富士中学校が分校から独立し富富士小中学校となる 町制施行により佐呂間町立富富士小中学校となる 中学校が佐呂間中学校に統合となり富富士小学校となる

○若里小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

若里小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：山口祐功）	沿	革
三 二 一 興勤新明 剛澁生傾 高大明潮 す労な日 き刺気れ きいかな ものりを ものあ射 もなるる の 呼 の りす のるか 勤わぶ 澁 りひ こ労れ こ刺わ清 こ大 ろ このら若 このれき こいわき に 若き に ら朝 になれ湖 創愛里明 鍛命若 学るら ら の星 え讃里 ば 若 ん 挙 が 行 が り 手 り て の て ぞ み て	明治４３年 ７月２２日 大正 ４年 ７月 ５日 大正１２年 ７月 １日 昭和１６年 ４月 １日 昭和２２年 ４月 １日 昭和２２年 ５月 １日 昭和２５年１１月１５日 昭和２６年 ８月 １日 昭和２８年 ４月 １日 昭和４０年 ４月 １日	下湧別村芭露尋常小学校所属「床丹特別教授場」として開設 計呂地教育所に所属変更 床丹尋常小学校に昇格 床丹国民学校と改称 新学制施行により下湧別村立床丹小学校となる 中学校を併置 下湧別村との村界変更により佐呂間町に編入、佐呂間村立床丹小中学校と改称 字名変更により若里小中学校と改称 町制施行により佐呂間町立若里小中学校となる 中学校が佐呂間中学校に統合になり若里小学校となる

○若佐小学校（平成18年 若佐小学校再編）

若佐小学校校歌（作詞：小林幸雄・作曲：大野恒一）	沿	革
三 二 一 わみ澄樹 わ清心武 わみ緑朝 れんみ花 れくの士 れんに空 らなむの ら素ちの らな映あ の仲ゆひ の直り流 の明えお 若よくか 若にをれ 若るるく 佐く心る 佐 佐い 小 小伸洗水 小 佐風 学正歌こ 学びい清 学元呂か 校しとの 校ゆさく 校気間お いし庭 くり な山り 子てに 子 子	明治41年 6月 1日 大正 3年 4月 27日 大正 3年 9月 5日 大正 5年 5月 10日 大正 9年 4月 6日 昭和16年 4月 1日 昭和22年 4月 1日 昭和22年 5月 1日 昭和23年 4月 1日 昭和23年 6月 23日 昭和24年 11月 1日 昭和31年 9月 30日 昭和61年 4月 1日	下佐呂間尋常小学校所属「猿澗教授場」として開設 武士教育場に昇格 武士尋常小学校に昇格 補修科併置 高等科を併置し、武士尋常高等小学校となる。 武士国民学校と改称 新学制施行により佐呂間村立武士小学校となる 佐呂間村立第2中学校を併置 分村により若佐村立武士小中学校となる 若佐小中学校と改称 併置中学校分離独立 佐呂間町との合併により佐呂間町立若佐小学校となる 栃木小学校を統合

○佐呂間小学校（平成18年 佐呂間小学校再編）

佐呂間小学校校歌（作詞：大塚みつる・作曲：千葉日出城）	沿	革
三 二 一 雄競貫白 新海求湖 みき望朝 しいけ樺 たにめ んよめ霧 い励 なつよ湖 なうよ 意め佐白 潮ら なも 朝 気ば呂樺 をな佐 う 夢流佐霧 が 間 る呂 つ をれ呂 晴 冬小ふ 寄 間る る 間晴 燃の学ぶ せさ小 呼 小れ え日校く てざ学 ん青学 ても 路 く波校 で雲校 くる る が する いが 山	明治40年 6月 15日 明治41年 大正 2年 9月 1日 大正 4年 4月 1日 大正 7年 5月 25日 大正12年 4月 5日 昭和 2年 4月 3日 昭和16年 4月 1日 昭和22年 4月 1日 昭和26年 8月 1日 昭和28年 4月 1日	鎭沸簡易教育所分校川口教授所の第一特別教授所として開設 沙溜澗教育所所属第一特別教授所と改称 中佐呂間尋常小学校に昇格 中佐呂間尋常小学校所属富武士教授場設置 中佐呂間尋常小学校と改称 中佐呂間尋常高等小学校と改称 中佐呂間尋常小学校所属富武士教授場が特別教育規定により独立 小学校令改正により、常呂郡中佐呂間国民学校となる 学制改革により常呂郡佐呂間村立中佐呂間小学校と改称 常呂郡佐呂間村立佐呂間小学校と改称 町制が施行され、常呂郡佐呂間町立佐呂間小学校と改称

○若佐中学校（平成１８年 佐呂間中学校へ統合）

若佐中学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：松田喜一）	沿	革
三 二 一 若承明う夕 若通まひ風 若求望はみ 佐け日る映 佐いこびの 佐めあるは つあわえ 来とき木 きれかる 若ぎれしの 若てあ合々 若て なか 佐て や 佐 れう 佐 湖 りす 雲 雲 我 道 我 と こ 湖 中 中 等 風 こ に 中 等 明 こ 湖 学 学 磨 と こ の そ 学 る こ は 我 創 に 愛 立 等 磨 かん く せ ぎ て ら ぎ ら ん	昭和２２年 ５月 １日 昭和２２年 ７月 １７日 昭和２３年 ４月 １日 昭和２３年 ６月 ２３日 昭和２４年 １１月 １日 昭和２７年 ３月 ３１日 昭和３１年 ９月 ３０日	佐呂間村立第２中学校として開校（若佐小学校に併置） 武士中学校と改称 分村により若佐村立武士中学校となる 若佐中学校と改称 単置校となり上佐呂間中学校を統合（分校として所属） 上佐呂間分校廃止 佐呂間町との合併により佐呂間町立若佐中学校となる

○浜佐呂間中学校（平成１８年 佐呂間中学校へ統合）

浜佐呂間小中学校校歌（作詞：坂本 亮・作曲：津田 甫）	沿	革
三 二 一 こ描よく夕 こ築はオ澄 こ学あ朝イ のころれや のこばホみ のぼかかワ うこなけ うたしわ うるぜケ よびいの よくツた よいにシ い花に いゆくる いたの 丘咲あ雲 丘たのの 丘しひそ のくふそを のかぞの空 のかとよ山 れまう ながみ遠に なみぐが 学夢るるう 学をい 学 と 校を胸サし 校里を仰汐れ 校知しか で に口て でをぎざて で恵声らが み マ み い み でかや ん 湖 ん な ん な ばき な	大正 ４年 ４月 １日 大正 １３年 ５月 ７日 昭和 ５年 １月 ２０日 昭和 ５年 ４月 ７日 昭和 １６年 ４月 １日 昭和 ２２年 ４月 １日 昭和 ２２年 ５月 １日 昭和 ２８年 ４月 １日 昭和 ３０年 ７月 １日	下佐呂間尋常小学校所属「川口教授所」として開設 川口尋常小学校に昇格 下佐呂間尋常小学校と改称 高等科を併置し下佐呂間尋常高等小学校となる 下佐呂間国民学校と改称 新学制施行により佐呂間村立下佐呂間小学校となる 佐呂間村立下佐呂間中学校を併置 町制施行により佐呂間町立下佐呂間小中学校となる 字名変更により浜佐呂間小中学校と改称

社 会 教 育

社会教育目標

人生100年時代を迎え、ゆとりと活力に満ち、健やかに過ごしたいという町民の共通の願いがあります。このことから、文化・スポーツなどを通じて生きがいを創造し、豊かな地域づくり・人づくりを目指して主体的に学習実践する町民の育成に努めるため、この社会教育目標を制定します。

人々を 地域を 夢を育む サロマの未来

【知】 未来を語り ともに学び 自ら創り出す サロマ人に

「人は地域を造り、地域は人を作るがごとし」と言われ、先人の知恵を媒体に、個々人は生きて働く力を持つ必要があります。現実を踏まえつつも、未来に夢を抱き、ともに学び続ける意欲を形成することによって時代の変化に対応できる資質の向上を図り、創造する人間像を目指すものです。

【情】 自然を愛し 人を愛し ふるさとを愛する サロマ人に

郷土に生きる喜びを、ともに分かち合い、心豊かで潤いのある社会生活の維持向上のため自然や人々との触れ合いを大切にするとともに、郷土芸能や伝統文化等を介して情操豊かにして、温か味のある人類愛を創造する人間像を目指すものです。

【意】 汗を尊び ぬくもりのある 地域づくりを目指す サロマ人に

勤労を喜びとし、自己啓発をはかり、日々の生活に生きがいを感じ、ゆとりと充実の中に、住民一人ひとりが地域に目覚め、地域とともに成長することを願い、地域に根ざした諸活動への積極的な参加を通して、地域づくりを創造する人間像を目指すものです。

【体】 大地とともに生き たくましく躍動する サロマ人に

大自然の豊かな恵みを受け、心身ともに健康で明日を夢見る生活環境を構築するために健全な心身への関心をもち、日常的に運動に参加し、スポーツの生活化をはかり、生き生きと健康で長生きのできる社会を創造する人間像を目指すものです。

(平成8年2月1日制定)

(令和3年2月17日一部改訂)

■ 解 説

緑豊かで、朝陽に輝く湖、風光明媚な郷土で先人達は、1世紀にわたって己に夢を抱き、ロマンを求め不屈の開拓精神を駆使し、今日的な活気のある佐呂間町の繁栄を築きあげてきました。この先人の残した貴重な伝統を受け継ぎ、21世紀に羽ばたく町民像を創造し、来るべき社会にふさわしい町民の意識や行動の変容が期待されています。

そして町民憲章の英知と友愛と勇気の精神の響きは大きな夢に波及し、人々に生き甲斐と潤いを持たせ、佐呂間町に「住みたい」、「住んでよかった」という未来のサロマを強く希求します。特に今日的課題である『人間性の欠如』に関わって、佐呂間町特有の大自然の優しさ・厳しさを媒体に人々を育み、高い知性とあふれる創造力をもって思いやりや、たくましいサロマ人としての誇り高い町民像を目指したものです。

◆ 推進目標

- 乳幼児教育 親と子の健やかな愛を育む、乳幼児教育の推進
- 少年教育 たくましく豊かな心を育む、少年教育の推進
- 青年・成人教育 潤いと豊かな明日を創る、青年・成人教育の推進
- 高齢者教育 健康で生きがいのある、高齢者教育の推進

■ 解 説

人間は生涯にわたって発達するものであり、発達段階にふさわしい教育目標を設定し、その具現化のために、人的・物的な諸条件を整備充実することにより望ましい人間が形成されるという仮説を立て、方向目標として制定したものです。各目標は、佐呂間町ばかりでなく、広く今日的課題として考察し、未来に希求するサロマの人間像として示したものです。特に、21世紀は心の時代ともいわれ、各発達段階において、必要課題や要求課題等を十分に検討し、達成目標を掲げ施策を試みる必要があります。町民の意識では、全体として、『健やか・たくましさ・潤い・生きがい』を求めていることを踏まえ、町民のニーズに応える内的要求・外的要求を組み合わせながら人間性豊かな人格を形成することを目指しています。

◎ 第8次社会教育中期計画のキーワード

『多様性』

- ・「みんなちがって、みんないい」
近年、多様な人達・価値観・思考が顕在化しています。
それらの多様性を受け入れ活用し、誰もが尊重され活用できる社会の構築が望まれます。

『いのち』

- ・世界各地で自然災害の発生、地域紛争の勃発、そして新たな感染症の拡大など、今多くの命が脅かされています。
改めて一人ひとりが命の大切さを自覚し、尊い「いのち」を考えることが大切です。

『変革』

- ・自然、科学、社会、教育など、私達の日常を取巻く環境は大きく変遷してきました。今後更に変化が予測される社会では変えてならない大切なものを堅持しながら、時代の変化に適応した変革が必要です。

◎ 第7次社会教育中期計画のキーワード

『寿世代』（佐呂間町の社会教育において、60歳以上の世代を呼称する。）

- ・皆長寿社会が定着し、あらゆる方面で、「寿世代」の存在感が増しています。
今後、生産現場に限らず、ふるさとづくりにおいても、「寿世代」が培った知識・技能を活かすことが期待されています。

『居場所』

- ・すべての人が、生き活きと暮らすために、家庭・地域・学校・職場など様々なところで、一人ひとりの「居場所」が必要です。
子どもから「寿世代」まで、あらゆる世代の「居場所」づくりが求められています。

『双方向』

- ・社会が大きく変遷する中、人間関係の希薄化が進み、5年前の東日本大震災以降「絆」やより強い人の繋がりが求められています。
「双方向」からの情報の共有や交流事業を推進し、「学び合う、育ち合う、高め合う」関係をつくる事が必要です。

◎ 第6次社会教育中期計画のキーワード

『絆』

- ・今の時代背景の中で、過疎・少子高齢社会が「限界集落」を、経済不況・人間関係の希薄化が「無縁社会」をつくり出し、一方家庭では介護・育児における家庭の在り方、親子の在り方が大きな問題になっています。
誰もが安心して暮らせるために「支え合う 助け合う つながり合う」人と人との強い「絆」で結ばれた社会の構築が求められます。

『環 境』

- ・地球規模の大きな気候変動が、私たちの身近な暮らしにも深刻な影響を与えています。郷土（ふるさと）の豊かな自然を、恵まれた環境を確かなものとして未来に引き継ぐことが私たちの責務であり、そのことが、かけがえのない地球を、かけがえのない生命（いのち）を守ることになります。

『人間力』

- ・住民の「ビジョン（夢）」、「パッション（情熱）」、「アクション（行動）」によって地域は創造されてきました。多くの課題に取り組まなければならないこれからの地域づくりには、今まで以上に一人ひとりの力が求められています。自ら学び成長することが地域の成長になり、たくましい地域をつくりあげることになります。

令和7年度 社会教育関係事業

領 域		子 育 て					
課 題		○子育て支援に関する情報発信を充実させる必要がある。 ○子育て中の親同士のコミュニティが必要である。 ○ICT機器の利便性・危険性の知識が必要である。 ○学校との連携が必要である。					
方向性		○子育て支援センター事業の充実 ○子育てに関する情報発信の工夫と強化 ○SNSを学ぶ場の提供 ○地域の教育力の活用					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	あいあいらんど	乳幼児期の子どもと親を対象に、家庭ではなかなかできないことや四季折々の行事を体験することで、子どもたちの集団生活への適応性・コミュニケーション能力の向上、親同士の交流を推進する。	未就学児とその親	①7月2日 ②7月10日 ③9月10日 ④10月15日 ⑤12月17日 ⑥1月21日	①町民センター ②佐呂間保育所 ③流水公園 ④町民センター ⑤町民センター ⑥保育所駐車場	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	子育て支援センター、社会教育課、保健福祉課共催 (①えんにち②ミニコンサート③バス遠足(道立オホーツク流水公園)④親子ミニ運動会⑤クリスマス会 ⑥雪中運動会)
社教	お話あいあい	乳幼児期の子どもを持つ親を対象に、子育てに関する情報を提供することで子育てに対する不安の軽減を図るとともに、子育てについてともに考える仲間づくりを推進する。	未就学児とその親	①5月14日 ②6月4日 ③7月9日 ④8月28日 ⑤9月24日 ⑥10月1日 ⑦11月12日 ⑧2月4日	子育て支援センター (⑤町民センター ⑦はスター)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	子育て支援センター、社会教育課、保健福祉課共催 (①歯の大切さ(1・2歳児～)②歯の大切さ(妊婦・0歳児)③救急処置法(0・1歳児)④言葉を育む関わり方⑤ヨガ⑥救急処置法(2歳児～)⑦親子ふれあい体操(2歳児～)⑧親子ふれあい体操(1歳児))
社教	家庭教育学級	親(地域住民)が子育ての知恵を得たり、子ども達にとって望ましい地域環境づくりを進めるための学習機会の場として、学校地域内を中心に開催する。	町内小中学校	随時	学校等		講師謝礼及び消耗品費を教育委員会が支出上限額 ・講師謝礼(年間)20,000円 ・消耗品費(年間)5,000円
社教	家庭教育講演会	家庭教育の重要性を再認識させ、地域の教育力の向上を図る。	乳幼児・児童生徒を持つ親、祖父母ほか	6月17日	町民センター		町PTA連合会の研究大会に合わせて実施 ベップトークをテーマにした講演会を予定 講師：日本ベップトーク普及協会代表岩崎良純氏
社教	子育て講座	町内の親子等が協力して地域の産業などについて学び、地域の食、いのちの大切さ、家族のふれあいなどについて、学ぶ機会を提供する。	乳幼児・児童生徒とその親、祖父母ほか	未定	未定		企画内容は家庭教育推進会議で検討(家庭教育推進会議と共催)
社教	家庭教育推進会議	地域ぐるみで子育てを行う意識を高め、また地域の力を生かして子育て事業の展開を図る。	子育て関係機関等	年3回程度予定	町民センター等		関係機関(子育て支援団体、PTA、スポーツ少年団本部、保健師、子育て支援センター、社会教育課)の情報交換 家庭教育講演会、子育て講座等事業について検討
ｽｰ	元気アップ運動ひろば	(詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載)					
図書	ブックスタート	(詳細「図書館」領域に掲載)					

領 域		育 ち					
課 題		○ICT機器使用のコントロール力を養う必要がある。 ○SNS等の危険性を学ぶ必要がある。 ○実体験からの学びが必要である。 ○多様な人間との関わりが必要である。					
方向性		○事業の情報発信の強化 ○ICT機器について学ぶ機会の提供 ○事業内容の充実と工夫(体験型・多様性) ○学校との連携強化					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	サイエンスキャラバン	町内の子どもや町民に科学への関心を高めるとともに、実験を通して親子のふれあいや、大人と子どもとの交流を深める。	小学生以下	2月15日(予定)	町民センター		子ども会育成会連絡協議会共催 かまくら雪まつりと同日開催 管内理科教員等の協力により、科学実験・工作を行うブースを設置
社教	子育て講座	(詳細「子育て」領域に掲載)					
社教	佐呂間高校生フォトコンテスト	(詳細「学び」領域に掲載)					
社教 社体	わんぱく広場	地域の身近な自然・人材を活用することにより、ふるさとに対する愛着心の向上を促すとともに、各種体験活動を通じ、学校間、異年齢間の交流を図る。	小学4～6年生	未定	未定		

領 域		学 び					
課 題		○ＩＣＴ機器操作の学びを提供する必要がある。 ○対面・交流による学びの場が必要である。 ○誰もが参加しやすい環境をつくる必要がある。 ○女性が参加しやすい学びの場や交流の場が必要である。 ○町民の声が反映された事業づくりや情報提供をする必要がある。 ○学習活動団体の育成をする必要がある。					
方向性		○ＩＣＴ機器を活用した学びの支援 ○学びへの意欲や理解を促進する環境整備 ○学習・交流の場づくりや支援 ○町民の声（ニーズ）の聞き取りの充実 ○情報提供ツールの拡大					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	佐呂間高校開放講座	生涯学習の観点から地域の教育機関と連携し、町民の学習機会の拡充を図る。	成人	11月（予定）	佐呂間高校		佐呂間高校と共催
社教	佐呂間高校生フォトコンテスト	佐呂間高校と地域のつながりや地域創生に向けた高校の魅力化を図るとともに、高校生の郷土愛の醸成を目的に事業を展開する。	佐呂間高校 1・2年生	4月23日～1月末（撮影期間）	町内		佐呂間高校と共催 4/23：R6年度表彰式、岸本氏講演、R7年度事業説明を実施 R6年度作品巡回展示を3/19～7/17で実施 （佐中・町民センター・若佐コミセン・浜佐呂間活性化センター・道の駅・サンガーデン・佐高）
社教	町民講座「夢工房」	町民が心豊かな生活を送れるよう、また多様な学習要求に応える機会を提供し、学習意欲の向上と日常化を促す。併せて、町内の指導者を活用し新たな人材の育成を図る。	成人	①7月12日（予定） ②未定			①安保真氏「滲み画教室」 ②やさしいいほんご講座（仮）
社教	寿大学	（詳細「生きがいがづくり」領域に掲載）					

領 域		生きがいがづくり					
課 題		○町民の知識・技能を地域に活かす必要がある。 ○要望に対応した学習活動・団体活動の環境整備をする必要がある。 ○社会性を育むための学習機会の提供と参加を促す必要がある。 ○情報通信技術の向上を図る必要がある。					
方向性		○寿世代の知恵の継承 ○個人で取り組むことが難しい活動への支援 ○世代間・分野間の交流事業 ○ＩＣＴ機器を活用した生きがいがづくりの支援					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	寿大学	高齢者の生きがいがづくりに寄与するとともに、高齢者の持つ豊富な経験や能力の活用を図る。	60歳以上	通年	町民センター 他	学生93名 (R7.4.8現在)	
社体	さろまスポーツクラブ	（詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載）					
社教 社体 スター 図書館	事業講師の活用	町民の社会参加の場づくり、生きがいがづくりの観点から、社会教育事業の講師・協力者として、積極的に町民の協力を得ながら、事業展開をする	町民	随時			・社会教育事業で積極的に活用する。 ・人材の発掘に努める。

領 域		健康づくり・スポーツ					
課 題		○健康に関する活動を継続できる事業展開・支援の必要がある。 ○多様化するニーズに対応し、健康に興味・関心を促す取り組みの必要がある。 ○事業、指導者、団体の情報発信強化の必要がある。					
方向性		○ニーズに合わせた活動場所の提供 ○多様なニーズに応えるための指導職員の増員・育成 ○ＩＣＴの有効活用					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社体	サマ湖100kmウルトラマラソン	今年第40回の節目を迎えるサマ湖100kmウルトラマラソン。湧別町を5時にスタートし雄大なサマ湖を望みながらフィニッシュの北見市常呂町を目指します。（50kmの部は100年広場10時スタート）	成人	6月29日	北見市常呂町 佐呂間町 湧別町		
社体	出前講座	学校での運動事業に対し、スポーツ推進委員を派遣し、新しいスポーツの体験や交流を図る。	小学生	随時			学校と協議し実施予定
社体	スターまつり	スポーツ推進委員が企画運営し委員活動の活性化及び施設の利用促進並びに町民相互の交流を図る。	幼児 ～ 小学生	10月13日	スター		体力測定、ニュースポーツ、運動体験、水中ゲーム、絵本読み聞かせ

社体	スポーツ振興助成	本町のスポーツ振興に寄与するスポーツ団体・個人に対し助成を行い、町民の心身の健全な発達とスポーツ意識の高揚を図る。	全町民	随時			全道大会、全国大会、選抜大会参加経費の一部を助成
社体	スポーツ表彰	スポーツの振興に寄与した者及び優秀な成績を収めた者を表彰する。	全町民	10月13日 スターまつりと併催	武道館		・スポーツ功労賞 ・スポーツ奨励賞 ・スポーツ特別賞
社体	学校開放事業	本町のスポーツ振興のため学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放し、地域住民の健康増進及びコミュニティ形成に寄与する。	全町民	随時	各小中学校		利用種目 佐小：バレー、ミニバス、野球、バドミントン 若小：バレー、ミニバレー 浜小：バスケット 佐中：バドミントン
社体	スポーツチャレンジday	スポーツ推進委員が企画運営し、様々な種目を実施することで子ども・親子でスポーツの楽しさを体験し、運動習慣や協調性を学ぶ場を提供する。	小学生	1月頃	100年広場 武道館		冬ならではの外遊びや室内でニュースポーツ体験を実施予定
社体	健康ウォーキング	スポーツ推進委員が企画運営し、町民の健康増進、運動の習慣化を図り、更には町民相互の交流を図る。	全町民	①秋 ②冬	①富士 ②富士		①コース未定 ②コース未定（スノーシューを装着して実施予定）
社体	さろまスポーツクラブ	スポーツ機会の創出や町体育館の利用促進、町民相互の交流促進を図る。	成人	秋～冬頃	町体育館		各種スポーツ体験事業
スター	さろま健康づくり講座	スターの施設を活用した健康づくり講座を外部講師を招き開催。	成人	全7回 ①8月29日、9月5日、9月12日 ②9月下旬～10月下旬	武道館		①ZUMBA 等 19:00～20:00 * 驚インストラクター ②ヨガ 等 10:30～11:30 * 南出インストラクター
社体 スター	からだはぐくむスクール 「ちびっこスキー教室」 「ちびっこ運動教室」	就学前児童に対し、就学に備えた体力づくりとスポーツの楽しさを理解させる。	R8年度新1年生	全3回 1月17日～31日	町営スキー場		毎週土曜日、3回開催予定 ※指導協力：スキー協会、スポーツ推進委員 ※予備日2月7日（土）
				全3回 2月14日～28日	武道館		毎週土曜日 13:30～14:15 ※指導協力：山崎指導員
社体 スター	冬期健康プログラム 「こども運動塾」	小学生の運動能力と挑戦する気持ちを引き出す。	小学1～6年生	1月7日～ 3月11日	武道館	各25名	* 毎週水曜日（低学年） 毎週金曜日（高学年） * 16:00～17:00 全9回 ※指導協力：山崎指導員
スター	元気アップスイミング 「ちびっこコース」	施設の利用方法やプールにおける約束事の確認をしながら初歩の水泳を学ぶ。	R8年度新1年生	【Aコース】 7月16日・23日・30日 【Bコース】 7月17日・24日・31日	温水プール	各10名	* Aクラス 16:30～17:20 * Bクラス 16:30～17:20 ※事業協力：水泳指導員外
スター	元気アップスイミング 「ジュニアスイミングコース」	各レベルに応じた段階的指導を行い、楽しみながら水泳を学びプールが好きなになる教室運営を目指す。	小学1～3年生	5月13日 ～ 7月11日	温水プール	各12名	* 指導内容：水なれ～クロール息継ぎ * 4クラス・各9回 * 16:00～17:00 ※事業協力：水泳指導員外
スター	元気アップスイミング 「ジュニアスイミング&体幹トレーニングコース」	陸上でのトレーニングと水泳を組み合わせ、総合的な運動能力向上と泳力の向上を目指す。	小学4～6年生	8月21日 ～ 10月17日	武道館及び 温水プール	各15名	* 指導内容：水中での体幹トレーニング（発育発達運動）及び水泳の各種泳法 * 2クラス・各9回 * 木曜日16:00～17:10 * 金曜日16:00～17:10 ※事業協力：水泳指導員外
スター	冬期健康プログラム コンディショニング&トレーニングミニ講座	気軽に参加できる各種トレーニングに関する講座を開催し、町民の健康維持・増進と施設の利用促進を図る	成人	1月7日 ～ 3月4日	武道館 会議室	各10名	ストレッチング、コンディショニング、筋力運動、ウォーキング等のミニ講座 * 水曜日19:00～19:45 * テーマについては事前告知（夢通信、館内配布カレンダー等） * 2/11(水)は祝日のため2/10(火)に変更
スター	元気アップ運動ひろば	武道館の空き時間とスペースを活用し、各種トレーニングや卓球、運動遊び等による健康づくりの場を提供する。	乳幼児・小学生 （保護者同伴） ～成人	4月1日 ～ 3月31日	武道館	—	* 平日（火～金） 10:00～21:00 * 土・日・祝 10:00～17:00 * スター事業、武道利用、その他団体使用時は中止 * ピックルボールを新規導入

ｽﾀｰ	パーソナル指導	利用者の目的に合わせた各種トレーニング及び水泳・水中運動の個人指導	幼児 ～ 成人	5月8日 ～ 3月31日	温水プール トレーニングルーム 会議室 他	1～5名	*事前予約制 *1人年間10回まで、月2回まで申込み可（但し、プールでの指導はシーズン中1人5回まで） *陸上でのトレーニング指導は小学生以上 *3名以上の指導は18歳以上が対象
ｽﾀｰ	指導者派遣事業	指導者派遣依頼・教室開催要望等へ対応	—	通年	スター 他	—	*1団体につき年間3本まで
ｽﾀｰ	冬期健康プログラム 「らくらく健康体操」	中高齢者向けに健康体操教室を実施する。	成人 (高齢者向け)	1月8日 ～ 3月19日	武道館	50名	*毎週火・木曜日 全18回 *13:30～14:15
ｽﾀｰ	健康スノーシューコース開放	冬期間の100年広場を活用した屋外スポーツ活動の場を提供することで、町民の健康維持・増進を図る	町民	2月～3月	100年広場（パークゴルフ場及び多目的広場）	—	*貸出用用具設置
ｽﾀｰ	日本水泳連盟認定泳力検定会	日本水泳連盟認定の泳力検定を通じて、水泳技術の向上を図る。	小学生以上	10月31日	温水プール	—	*18:30～19:30
ｽﾀｰ	水泳指導者講習会	水泳の指導理論及び指導実技研修	町内水泳指導員	5月18日	温水プール 他	—	テーマ 未定 講師：北見市温水プール 施設長 澤田氏

領 域		施 設				
課 題		○年間を通して子どもたちが安全に遊べる場所が必要である。 ○多様化する活動に対応するため、施設利用条件を緩和する必要がある。 ○施設開設状況など利用に関する情報発信強化の必要がある。 ○施設・設備の維持管理及び新設の検討が必要である。				
方向性		○子どもたちが安全に遊べる場所の提供 ○更新の検討及び更新の際のバリアフリー化、複合化、集約化 ○施設利用の利用条件緩和 ○利用に関する情報発信改善				
係	施 設 名	主な施設整備	開設年度	休館日・利用時間等	備 考	
社教	町民センター	施設の維持管理を継続して実施 ①町民センター空調設置工事 【事業費：5,027千円】	昭和52年	休館日：12/29～1/5 利用時間：午前9時～午後10時	①町民センター1階 第2研修室(1台)・和室1(1台) エアコン設置工事を実施	
社教	開拓資料館	施設の維持管理を継続して実施	昭和52年	休館日：12/29～1/5 利用時間：午前9時～午後5時		
社体	体育館	施設の維持管理を継続して実施	昭和47年	①休館日 ・毎週木曜日 ・国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日 ・12/29～1/5 ②利用時間 ・月、火、金 午後1時～午後9時 ・水 午後1時～午後9時30分 ・土、日 午前9時～午後5時		
社体	スキー場	リフト索輪・索受装置取替工事 【事業費：1,947千円】	昭和59年	利用期間：1月～3月 利用時間： 2月まで 10時～21時 3月平日 16時～21時 3月土日 10時～16時	8号支柱上りおよび下りの索輪・索受装置の取替を実施 (平成29年度から毎年実施している)	
社体	100年広場		平成4年	利用期間は各施設利用可能な期間とし利用時間は施設によって異なります。		
社体	屋外体育施設	①屋外体育施設除草剤散布業務（即効性） ・若佐PG場、100年広場（PG場、多目的広場）、浜佐呂間PG場 【事業費：1,089千円】 ②屋外体育施設除草剤散布業務（遅効性） ・若佐PG場、100年広場（PG場、多目的広場）、浜佐呂間PG場 【事業費：1,650千円】 ③パークゴルフ場等芝生整備工事 ・多目的広場エアレーション施工 【事業費：1,716千円】	佐呂間パークゴルフ場 平成4年 若佐・浜佐呂間パークゴルフ場 平成10年 佐呂間テニスコート 昭和55年 総合グラウンド 昭和47年	利用期間は各施設利用可能な期間とし利用時間は施設によって異なります。	①・②：R3年度の旱魃による被害からの芝生再生事業として、芝生の再生を阻害する雑草の駆除を目的としてR4年度に除草剤を散布し、その効果が確認されたため引き続き実施するもの。 ③多目的広場の芝生維持管理のため、エアレーションを実施 ※エアレーションとは、芝生の土壌に穴をあける作業のことで、密生した根茎をほぐし発根を促すとともに、通気・通水性を向上させるもの。	
ｽﾀｰ	武道館・温水プール	施設の維持管理を継続して実施 武道館トップライト防水屋根塗装工事 【事業費：5,863千円】	平成6年	①休館日 ・毎週月曜日 ・国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日 ・12/30～1/6 ②利用時間 ・午前10時～午後9時 ・土、日、祝は 午前10時～午後5時 ③温水プールの開館は5～10月	武道館トップライト部分の防水工事並びにトップライト下部の屋根塗装工事	

領 域		団体支援				
課 題		○団体の存続・活動支援を強化する必要がある。 ○多様化する少人数グループの活動促進、情報発信強化をする必要がある。 ○少人数グループの活動場所の提供が必要である。 ○指導者の育成、支援強化する必要がある。				
方向性		○団体活動のPR促進、情報発信強化支援 ○指導者の発掘、育成支援 ○補助金等の支援の継続				
係	団体名	趣 旨	予算額	交付額	備 考	
社教	子ども会育成会連絡協議会	各種事業・研修会の実施、子どもたちの健全育成、リーダーの育成、さらには地域の教育力の向上など、町内の単位子ども会の活動を推進するため、町内の子ども会育成会に組織する「子ども会育成会連絡協議会」に対し支援する。（単位子ども会育成会7団体）	269,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成、サイエンスラボの共催等	
社教	P T A 連合会	親と教師が相互に連携し、研修会への参加や研究大会の開催、地域の教育力の向上など、町内の小、中学校及び高校のP T Aで組織する「P T A連合会」の活動に対し支援する。	145,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成、町P連研究大会、教育懇談会等	
社教	文化連盟	町民に成果を発表、鑑賞する機会を提供し、地域の芸術文化の振興に寄与するなど、本町の文化活動の中心となる活動している「文化連盟」の活動に対し支援する。	600,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成、総合文化祭開催、リーダー研修等	
社体	佐呂間町スポーツ協会	佐呂間町のスポーツの普及並びに団体の活性化を図るため、教室の開催や加盟団体との連携を図っている「佐呂間町スポーツ協会」の活動に対し支援する。	1,200,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成、町内大会後援等	
社体	スポーツ少年団本部	佐呂間町の少年スポーツの普及並びに活性化を図るため、教室の開催や加盟団体との連携を図っている「スポーツ少年団本部」の活動に対し支援する。	383,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成、講習会への支援等	
社教・社体	佐呂間町文化・スポーツ活動促進事業	対象者を構成員の過半数が町民であるスポーツ協会加盟団体、少年団本部加盟団体、文化連盟加盟団体、指導者を含め5名以上で構成され、1年以上継続している団体・サークル、佐呂間中学校及び佐呂間高校の部活動を対象に、対象団体が主催する講習会等に係る講師謝礼、団体構成員、指導者が参加する講習会に係る旅費等を補助	500,000円		【活動内容】 補助金の交付、団体育成	

領 域		芸術・文化					
課 題		○芸術・文化の情報を発信する必要がある。 ○芸術文化支援事業について周知する必要がある。 ○団体・サークルへの活動支援が必要である。					
方向性		○芸術・文化活動の情報発信の強化 ○芸術文化支援事業についての周知の工夫 ○団体・サークルへの活動支援の強化 ○団体・サークル間の交流促進					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人数	備 考
社教	ミニ劇場	幼児に生の芸術に触れる機会を提供し、創造性を養い、豊かな情操を育む。	町内保育所児・その他幼児ほか	7月10日	佐呂間保育所		幼児向けの音楽コンサート（ひのき屋）
社教	少年文化劇場 （小学生・中学生対象）	芸術鑑賞の機会を提供することにより、文化に対する理解と親しみを深めるとともに、情操面での発達を促す。	小・中学生全員	①9月4日 ②8月28日	①佐呂間小学校 ②佐呂間中学校		①ミュージカル「オズの魔法使い」（劇団トマト座） ②「ケッチのバントタイム公演及びコミュニケーション教室」（出演：ケッチく元がーまるちょば）
社教	ジョイントコンサート	中学校吹奏楽部と高校吹奏楽局が、日頃の練習成果を広く町民に発表する機会を提供するとともに、吹奏楽08を中心に賛助出演者を募集し、一堂に会して演奏することで、親睦と技術の向上を図り、また他の楽器や団体とのコラボ企画を加え、より多くの町民に、音楽を身近に感じ楽しめる鑑賞機会を提供する。	全町民	12月6日	町民センター		R6年度から、佐呂間中学校吹奏楽部と佐呂間高校吹奏楽局と共催で実施（R4・R5年度は後援）
社教	ミニ・ギャラリー	各種作品の発表の場及び観賞の場を提供することで、芸術文化の振興を図る。	全町民	随時	町民センター1階ロビー		
社教	現代墨絵作家「安保 真」作品展 （墨絵教室の開催）	佐呂間町出身芸術家の作品を町内の多くの方に観てもらうとともに、墨絵（滲み画）原画の作品展とおし芸術活動の楽しさや素晴らしさを知る機会を提供し、豊かな心と感性を育み、芸術への関心を高めてもらう機会とする。	全町民	7月（予定）	図書館		墨絵、滲み画ほか原画を展示 姉妹都市交流記念式典（7/11）にあわせて 安保氏来町予定 滲み画教室開催予定（町民講座欄に記載）
社教	芸術文化支援事業	佐呂間町内における芸術文化公演等の鑑賞機会の充実を図り、また町民の自主的な芸術文化活動の活性化を図る。	全町民				・事業費補助 ・会場使用料免除 ・チケット取り扱い ・町民センター優先予約 ・名義後援
社教	文化講演会	町が主催で著名人による講演会を開催し、町民の文化意識を高め、芸術文化活動の活性化を図る。	全町民				内容未定
社教	芸術文化表彰	芸術文化の振興及び普及発展に顕著な事績又は功績のあった者を表彰する。	全町民				

社教	二十歳の成人式 記念事業	新成人を祝福するとともに、新たなスタートへの自覚を促す。	平成17年4月2日～ 18年4月1日までに 生まれたもの	1月11日	町民センター		成人式の祝賀行事として、成人式終了後に鑑賞事業を実施。
社教	音届けコンサート	町内では触れる機会の少ない質の高い音楽に触れる機会を提供することにより、子ども達や町民に音楽を愛する心を育て、豊かな情操を養う。 プロの音楽家達と佐呂間高校吹奏楽局員で演奏グループを結成し、町内各所に出向いて小さいコンサートを開催することで、音楽を身近に感じてもらうとともに、出演する高校生にとっても、プロと共演する機会を提供する。	全町民	12月19日	町民センターほか		佐呂間高校吹奏楽局と協力して実施

領 域		文化財					
課 題		○歴史的文化財の存在を周知する必要がある。 ○歴史的文化財を保全整備する必要がある。 ○開拓資料館・町民センター展示室の存在を周知する必要がある。 ○開拓資料館の展示の工夫と展示品を整備する必要がある。 ○説明ボランティアの育成が必要である。					
方向性		○歴史的文化財・自然風景の情報発信 ○開拓資料館・町民センター展示室の情報発信 ○開拓資料館の名札・説明板などの整備 ○説明を担う人材の育成					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期日	開催場所	人数	備 考
社教	佐呂間の歴史を学ぶ (小学生フィールドワーク)	小学生の社会科の学習において、佐呂間町の開拓の歴史に触れてもらう機会を提供し、先人たちが開拓した当時の様子や生活の移り変わりを学んでもらう	小学3・4年生	随時	開拓資料館		
社教	郷土資料の展示	佐呂間町における開拓資料を収集、保存展示し、教育、学術文化の進展に寄与する。	全町民	常設	開拓資料館 町民センター		石器等巡回展示及び授業 R6年度から町内小学校の児童を対象に実施 各学校の希望日に巡回展示（1週間程度）及び巡回期間内に町内講師による授業（講話・製作体験）を実施予定

領 域		情報・制度					
課 題		○情報発信を工夫する必要がある。 ○各種学習支援を周知する必要がある。 ○サポーターバンクを周知する必要がある。					
方向性		○ホームページの内容充実 ○SNSなどによる情報発信力の向上 ○各種学習支援制度・サポーターバンクの周知					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期日	開催場所	人数	備 考
社教	町広報 「夢つうしん」	生涯学習に関する啓もう・啓発のための広報活動を展開する。学校教育、社会教育事業について、積極的に周知する。	全町民	毎月			令和6年5月号より町広報内に「夢つうしん」ページを設けている（編集は社会教育課）
社教	遠軽地区学習支援 ネットワーク事業 「なな・なんと情報」	遠軽地区各町村事業の情報を広く周知することにより、住民の学習機会の拡大を図る。	全町民 (広報折込)	偶数月			遠軽地区教育委員会協議会主催事業 (R7編集担当 湧別町)
社教	地域学習活動支援事業 「まなびすと」	住民からの学習要望に対し必要な支援を行うことにより、住民の自発的な学習意欲の助長、学習機会の拡大を図り、地域生涯学習の充実・促進を図る。	町内で5人以上で組織する団体				学習要望に対する指導・助言（人的支援） （金銭的援助）上限額 ・講師謝礼 20,000円 ・消耗品費 5,000円
社教	サポーターバンク	町民の多様な自主的生涯学習活動を奨励、支援し、生涯学習活動の普及発展を図るとともに、町民が永年にわたって蓄積した知識、技能等を地域社会に還元する人材の発掘により社会参加を促進する。	全町民				内部資料として管理
社教	芸術文化表彰	(詳細「芸術・文化」領域に掲載)					
社教	芸術文化支援事業	(詳細「芸術・文化」領域に掲載)					
社体	スポーツ表彰	(詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載)					
社体	スポーツ振興助成	(詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載)					
図書	新着図書情報	(詳細「図書館」領域に掲載)					
図書	図書館だより「こちら佐呂間町立図書館です。」	(詳細「図書館」領域に掲載)					
社教 社体 スポーツ 図書	インターネットを活用した 情報提供	町ホームページなどを活用しながら情報発信を行う。	全町民	随時			令和7年度よりLINEを使った情報発信を実施する。

領 域		図 書 館					
課 題		○図書館事業の情報発信に工夫が必要である。 ○学校図書との連携を図る必要がある。 ○司書を有効的に活用する必要がある。 ○図書館全体のレイアウトの検討が必要である。 ○図書館ボランティアが必要である。					
方向性		○情報発信力の向上 ○学校図書との連携強化 ○司書の有効活用 ○読書スペースの拡充 ○図書館ボランティアの配置					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
図書	ブックスタート	子育て支援として絵本の活用を促進し、乳幼児と保護者の図書館の利用拡大を図る。 乳児と保護者に、読み聞かせの体験と組み合わせ、絵本を渡す。	乳児・保護者	偶数月 第4木曜日	佐呂間 コミセン	21組見込	9・10ヶ月児対象の乳幼児健診に合せて実施 「ぎゅう ぎゅう ぎゅう」 「やさいさん」
図書	セカンドブック	ブックスタート後、改めて絵本を通じての親子のふれあいの大切さを伝える。	3歳児	偶数月 第4木曜日	佐呂間 コミセン	24名見込	3歳児対象の乳幼児健診に合せて実施 「スーパーマーケット はなまる〜おみせがあくまに〜」 「ひいおばあちゃんのおそうじ」
図書	移動図書館車巡回及び文庫サービス	情報及び資料提供の地域格差を解消し、図書館活動のPR、新刊案内等広域的なサービスの提供を行う。また子どものうちから読書に対する興味、関心を高め、読書習慣を身につける。	全町民	随時			(巡回サービス) 4ヶ所 ・各小中学校 (文庫サービス) 2ヶ所 若佐コミセン・浜佐呂間活性化センター (団体貸出) 22ヶ所 ・各小中学校・高校・保育所・子育て支援センター・老人福祉センター・ケアハウス・スター・めくる・森永・J A・町民課 他 (宅配サービス R5.10月開始) 9名
図書	絵本原画展	絵本の原画を観ることで、興味関心をもち、本に親しむを感じてもらう。	全町民	9月18日～10月2日	図書館		絵本パネル巡回展 かとうまふみ「おとうさんのこわいはなし」 ※林-つ図書館協議会遠紋ブロック共同事業
図書	読書感想文・感想画コンクール	読書を通して子どもの豊かな感性や表現力の向上を図るとともに、読書習慣を育てる。	各小中学校 児童・生徒		図書館		R6～ 読書感想文展示のみ(審査なし) ・作品募集 6月～10月 ・感想画展示(館内) 11月1日～12月1日 ・記念品・作品集贈呈 12月 *中学生は全道感想文コンクールに応募
図書	図書館講演会	本・物語・読書に関連する講師・実演者を招き、講演会や講習会を行う。	全町民	7月5日(土)	図書館		おたのしみ劇場ガウチョス(人形劇) 「どうぶつのサーカス」 人形劇 30分 「紙コップでつくるマリオネット」 工作ワークショップ 60分
図書	おはなし広場	幼い時から絵本や紙芝居の読み聞かせにふれることで、読書の楽しさを身につけてもらう。	幼児・児童 保護者	毎週土曜日 午後2時	図書館		図書館職員又はボランティアが読み聞かせを行う 令和7年3月末現在 ボランティア2名登録
図書	人形劇公演	人形劇サークルによるボランティア活動を通して、絵本や童話の世界と子どものふれあいを図る。	幼児～一般	年数回	図書館・保育所		人形劇サークル「ばんぶきん」による人形劇、パネルシアター、ミュージックシアター、大型紙芝居の公演を行う 老人施設や団体からの要請にも対応する 平成29年度からは交通安全人形劇も実施
図書	映画上映会	映画鑑賞を通して、本や物語との出逢いを図る。	幼児～一般	定期	図書館		おはなし広場終了後に会議室等で開催 DVD作品を借り上げ、または購入し上映する
図書	子ども向け事業	学校休業期間中に図書館に親しむ機会を設け、図書館の利用促進を図る。	児童	夏休み・冬休み・春休み 学校休業期間	図書館		子ども向け事業を開催 R7～サフト(管理課所管)と共催予定
図書	図書館まつり	図書館に訪れるきっかけを作ることで、図書館のPR及び利用拡大を図る。	幼児～一般	9月7日	図書館		各種行事を実施する ・古本市・実演 等 ※お手伝い協力依頼は行事内容により検討
図書	新着図書情報	図書館に登録された新刊をとりまとめ、広く町民に知らせる。	幼児～一般	月1回	図書館及び 町ホームページ		印刷物をカウンター前で配布 * R7～ 4種類で月1回発行 一般向けを町ホームページ上でPDF形式で閲覧 高齢者向けを寿大学、ふれあい郵便に同封 児童向けを各学校へ配布
図書	図書館だより「こちら佐呂間町立図書館です。」	特集コーナーの紹介や、行事の告知など、図書館の情報を発信し、来館のきっかけを作る。	幼児～一般	月1回	図書館及び 町ホームページ		印刷物をカウンター前で配布 町内の学校・施設へ配布 町ホームページ上ではPDF形式で閲覧
図書	20歳の20冊	「読書を通して自立した社会人になってほしい」との思いを込め選んだ	平成17年4月2日～ 18年4月1日まで に生まれた方	1月11日	町民センター		成人式において実施(欠席者には送付)

図書	学校図書室との連携	学校と連携し、学校図書室の利用促進を図るため司書を中心とした図書館職員を派遣し、利用しやすい図書室づくりをサポートする。					
----	-----------	--	--	--	--	--	--

社会教育団体

■ 少年団体

○佐呂間町子ども会育成会連絡協議会

会 長 佐々木 大

事務局 長 土本 千 晶

団 体 名	育成会代表者名	子ども会員数	育成会員数
はばたけ子ども会	渡 辺 和 樹	11	11
とびたて子ども会	河 本 信 二	38	26
中学区青空子ども会	佐々木 大	17	15
うきうき子ども会	澤 井 誠	23	19
富武士子ども会	藤 崎 康 平	21	10
若里子ども会	平 谷 聡 子	10	7
若佐子ども会	谷 口 元 気	24	19
計		144	107

■ 成人団体

○佐呂間町PTA連合会

会 長 谷 口 元 気

事務局 長 橋 場 哉 子

団 体 名	代 表 者 名	会 員 数
若佐小学校PTA	谷 口 元 気	29
佐呂間小学校PTA	杉 山 友 洋	109
浜佐呂間小学校PTA	土 門 伸 介	18
佐呂間中学校PTA	河 井 裕 樹	109
佐呂間高校PTA	野 津 哲 弥	64
計		329

■ 文化団体

○佐呂間町文化連盟

会 長 江 口 美 知 子

事務局 長 大 宮 義 勝

区 分	団 体 名	代 表 者 名	会 員 数
華 道	華松園（松月堂古流）	天 内 和 子	6
歌 謡	カラオケ愛好会	岡 本 智 帥 雄	11
歌 謡	カラオケあすなろ	山 口 哲 夫	3
歌 謡	カラオケ寿	村 岡 マチ子	11
歌 謡	ハマナス	佐々木 昭 一	13
日 舞	若柳臣流・若寿会	若 柳 吉竹寿	20
ダ ン ス	社交ダンス同好会	日 沼 洋 子	12
ダ ン ス	キッズダンス	木野村 彩 華	7
ハワイアン	レイアロハ・フラの会	石 川 智佳子	20
詩 舞	聖月流若佐	野 畑 ふみ子	5
大 正 琴	大正琴くるみ会	檜 垣 久美子	6
大 正 琴	藤朋流	杉 本 久美子	9
詩 吟	静雲國暁流	寺 田 忠 弘	6
	計	13 団体	129

■ 体育団体

○ 佐呂間町スポーツ協会

会 長 尾 崎 実 事務局 長 草 野 雅 之
副 会 長 木 村 功 事務局 室 井 公 太
〃 大 宮 克 美

団 体 名	代 表 者 名	事 務 局	会 員 数
佐呂間町野球協会	石 川 勝 義	佐々木 崇	108
佐呂間町剣道協会	窪 田 直 喜	幸 松 賢	12
佐呂間町ソフトボール協会	大 宮 克 美	志 賀 克 浩	95
佐呂間町ブルームボール協会	室 井 久 志	中 原 央 人	10
佐呂間スキー協会	門 茂 治	山 本 幸 代	20
佐呂間ゴルフ同好会	船 木 邦 雄	水 田 勝 彦	46
佐呂間パークゴルフ協会	水 戸 秀 美	水 戸 秀 美	81
佐呂間町サッカー協会	阿 部 真	阿 部 楓 馬	22
サロマテニス協会	山 原 光 広	山 原 光 広	10
佐呂間町卓球協会	渡 井 靖 夫	永 井 啓 子	9
佐呂間モルック愛好会	干 場 久	干 場 久	20
佐呂間町バドミントン協会	諸 岡 伸 弥	古 舘 遼	9
佐呂間町陸上競技協会	尾 崎 実	土 本 千 晶	0
計 (13 団体)			442

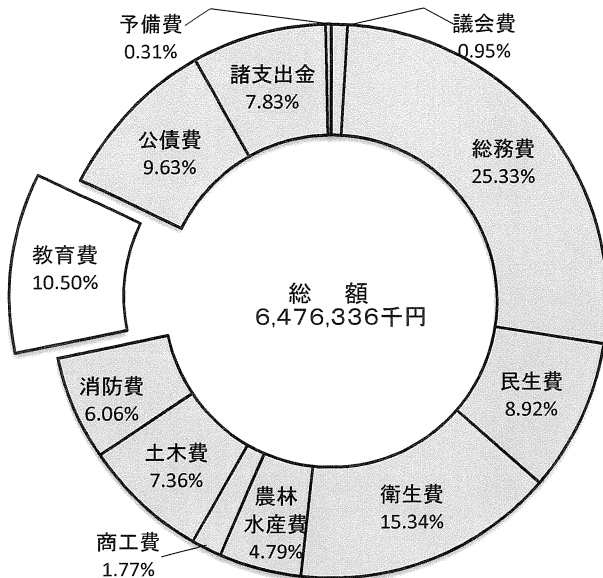
○ 佐呂間町スポーツ少年団本部

本 部 長 本 間 満
副 本 部 長 鹿 島 裕 明
事務局 長 吉 本 薫

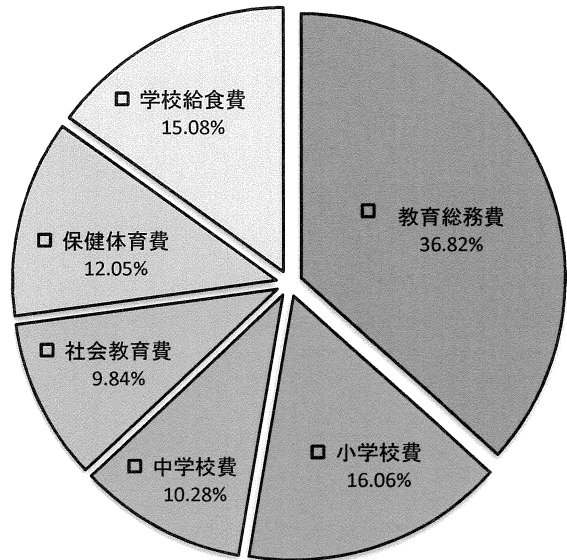
団 体 名	代 表 者 名	事 務 局	会 員 数
佐呂間野球スポーツ少年団	鹿 島 裕 明	鹿 島 裕 明	17
佐呂間柔道スポーツ少年団	尾 崎 実	尾 崎 実	8
佐呂間バレーボール少年団	吉 本 薫	吉 本 薫	13
佐呂間サッカー少年団	野 村 林太郎	野 村 林太郎	15
佐呂間ミニバスケットボール少年団	本 間 満	本 間 満	21
サロマジュニアラグビー少年団	尾 崎 実	尾 崎 実	0
計 (5 団体)			74

教 育 予 算

■ 令和7年度一般会計款別予算



■ 令和7年度教育費項目別割合



■ 教育費項目別予算額 (令和7年4月1日現在)

歳 出 予 算				財 源 内 訳			
項	目	予算額 (千円)	割合 (%)	国 道 支出金	地方債	その他	一般財源
教 育 総 務 費		249,496	36.69%			28,475	221,021
	教 育 委 員 会 費	1,653					1,653
	事 務 局 費	139,342				65	139,277
	教 育 財 産 管 理 費	76,148				2,410	73,738
	教 育 振 興 費	32,353				26,000	6,353
小 学 校 費		109,224	16.06%	6,256	3,500	24,600	74,868
	学 校 管 理 費	87,098		6,107	3,500	24,600	52,891
	教 育 振 興 費	22,126		149			21,977
中 学 校 費		69,888	10.28%	4,453	14,700	11,200	39,535
	学 校 管 理 費	52,808		4,345	14,700	11,200	22,563
	教 育 振 興 費	17,080		108			16,972
社 会 教 育 費		66,897	9.84%		20,200	5,539	41,158
	社 会 教 育 総 務 費	13,348				1,617	11,731
	町民センター運営費	20,680			3,100	122	17,458
	図 書 館 費	32,869			17,100	3,800	11,969
保 健 体 育 費		81,961	12.05%			7,495	74,466
	保 健 体 育 総 務 費	18,354				5,082	13,272
	体 育 館 費	9,148				179	8,969
	ス キ ー 場 管 理 費	5,992				1,236	4,756
	武 道 館 ・ 温 水 プ ール 費	48,467				998	47,469
学 校 給 食 費		102,551	15.08%			35,751	66,800
	学 校 給 食 費	102,551				35,751	66,800
合 計		680,017	100.00%	10,709	38,400	113,060	517,848
財源割合 (%)				1.57%	5.65%	16.63%	76.15%

教 育 施 設

施設の概要（令和7年5月1日）

■ 小学校

事 項 学校名	校地面積 (m^2)	建 物 面 積 (m^2)						
		校 舎				屋 内 運 動 場		
		木 造	鉄 筋	その他	計	鉄 筋	その他	計
佐 呂 間 小 学 校	31,897	73	3,448		3,521	27	1,061	1,088
若 佐 小 学 校	39,998		1,726	276	2,002	15	717	732
浜 佐 呂 間 小 学 校	36,593		2,469		2,469		726	726
合 計	108,488	73	7,643	276	7,992	42	2,504	2,546

■ 中学校

事 項 学校名	校地面積 (m^2)	建 物 面 積 (m^2)						
		校 舎				屋 内 運 動 場		
		木 造	鉄 筋	その他	計	鉄 筋	その他	計
佐 呂 間 中 学 校	33,970		3,454	169	3,623		1,052	1,052

■ 佐呂間町学校給食センター

建物面積 (m^2)	設 置 年 月 日	所 在 地	備 考
889	平成19年3月22日	佐呂間町幸町1番地の1	平成19年4月9日から各学校へ供用開始

■ 社会教育施設

施 設 名	規 模 (m ²)	設 置 年 月	所 在 地	施 設 の 概 要
町 民 セ ン タ ー	2,322	S52. 6	永 代 町	集会室、展示ロビー、研修室他
開 拓 資 料 館	110	S52. 3	永 代 町	農具、漁具、生活用具 約200点展示
図 書 館	797	S58.12	永 代 町	児童館併設
体 育 館	2,020	S47.10	西 富	アリーナ外
武 道 館 ・ 温 水 プ ー ル	3,663	H 6. 9	西 富	武道館、温水プール、トレーニング ルーム、ストレッチルーム、ランニ ングコース
総 合 グ ラ ン ド	28,363	S47.10	西 富	照明施設 8基 ソフトボール場2面・野球場1面
1 0 0 年 広 場 多 目 的 広 場	10,800	H 6. 5	西 富	芝コート
1 0 0 年 広 場 パ ー ク ゴ ル フ 場	41,897	H 6. 5	西 富	照明施設 2基 36ホール
1 0 0 年 広 場 ゲ ー ト ボ ー ル 場	1,437	H 6. 5	西 富	3面
テ ニ ス コ ー ト	1,469	S55. 8	西 富	照明施設 1基 2面
浜 佐 呂 間 テ ニ ス コ ー ト	851	H 7.12	浜 佐 呂 間	1面
浜 佐 呂 間 パ ー ク ゴ ル フ 場	24,288	H10. 2	浜 佐 呂 間	18ホール
若 佐 ゲ ー ト ボ ー ル 場	2,304	H10. 2	若 佐	2面
若 佐 パ ー ク ゴ ル フ 場	17,868	H10. 2	若 佐	18ホール
若 佐 テ ニ ス コ ー ト	685	H10. 2	若 佐	1面
ス キ ー 場	93,140	S59.12	西 富	ロッジ 照明施設 8基 搬器 72台

施設の利用状況（令和6年度）

■ 町民センター

区 分	集会室	控室	調理室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	和室 (1.2.3)	会議室	託児室	ロビー・ 2F展示室	合 計
利用件数	247	33	57	179	92	87	45	103	46	14	148	1,051
利用人数	8,242	449	563	1,482	508	944	229	1,140	234	37	1,261	15,089

■ 図書館

区 分	本館	B M 車	若 佐 コミセン	浜佐呂間	学 校 巡回文庫	団体貸出	宅 配 合 計
貸出冊数	21,489	462	206	29	5,779	9,799	1,162 38,926
貸出人数	4,911	283	54	10	443	190	5,891

■ 開拓資料館

利用人数	利用日数
63	15

■ 武道館・温水プール

区 分	武道館	温水プー ル	トレーニング ルーム	研 修 会 議 室	和 室	ランニング コース	そ の 他 合 計
利用人数	5,397	4,219	5,060	526	170	858	1,538 17,768

■ 体育館

利用人数	利用日数
7,784	285

■ テニスコート

区 分	佐 呂 間	浜佐呂間	若 佐	合 計
利用人数	133	0	0	133
利用日数	43	0	0	43

■ スキー場

利用人数	利用日数
13,104	39

■ 100年広場

区 分	ハーク ゴルフ場	多 目 的 広 場	合 計
利用人数	6,195	1,861	8,056
利用日数	199	103	302

■ 総合グラウンド

区 分	ソフト ボール場	野 球 場	フット ボール	合 計
利用人数	845	1,970	80	2,895
利用日数	30	80	4	114

■ 若佐グートボール場

利用人数	利用日数
106	17

■ 浜佐呂間プール

利用人数	利用日数
201	32

■ 学校開放

区 分	佐呂間小	若 佐 小	浜佐呂間小	佐呂間中	合 計
利用人数	5,220	89	79	1,187	6,575
利用日数	238	4	13	68	323

■ パークゴルフ場

区 分	若 佐	浜佐呂間	合 計
利用人数	3,183	619	3,802
利用日数	199	199	398

教 育 関 係 委 員 名 簿

■ 教育委員（５名）

氏 名	任 期	備 考
鈴 木 毅	令和７年４月１日 ～ 令和７年９月３０日	教育長
平 戸 鉄 也	令和５年１０月１４日 ～ 令和９年１０月１３日	教育長職務代理
内 藤 宏 文	令和４年１０月１４日 ～ 令和８年１０月１３日	
市 村 由 佳	令和３年１０月１４日 ～ 令和７年１０月１３日	
佐々木 由理佳	令和６年１０月１４日 ～ 令和１０年１０月１３日	

■ 社会教育委員（１８名以内）

任 期 令和６年４月１日 ～ 令和８年３月３１日

氏 名	備 考	氏 名	備 考
真 如 智 子	委 員 長	佐々木 理 有	
尾 崎 実	副委員長	檜 垣 久美子	
西 岡 理 恵	副委員長	本 間 恵 奈	
草 野 宏 繁		住 吉 浩 実	
宮 崎 勉		大 脇 茂 雄	
佐 藤 優 紀		今 野 敦 子	
船 木 桂 輔		佐 藤 元 展	
室 井 公 裕			
室 井 隆 治			

■ スポーツ推進委員（８名以内）

任 期 令和７年４月１日 ～ 令和９年３月３１日

氏 名	備 考	氏 名	備 考
室 井 久 志	委 員 長	住 吉 健 司	
佐 伯 優 一	副委員長	山 崎 亜 弥	
柏 尾 郁 未		田 宮 奈 々	
宇 野 優 利		大 橋 紘 子	

■ 佐呂間町教育委員会事務局の機構（令和7年4月1日現在）

（ ） 兼務職員 暫定再任用職員

【 】 会計年度任用職員

教育長 鈴木 毅

管理課長 西村 雅人 TEL 2-1294 FAX 2-1131	総務係長（西村 雅人）— 中谷 駿介・（沢井 香奈）・斎藤 博 教育委員、教育委員会議、総合教育会議渉外事務、公印の管守・儀式・典礼、教職員の表彰・条例・規則・令達、学校の設置・廃止、文書の收受・発送、局内の取り締まり、町議会提出議案の総括、請願・陳情、職員の任免・その他人事・福利厚生・保健衛生、教職員の任免・人事・給与、教職員の分限・懲戒・服務、学級編成・教職員の配置、教職員団体、税外収入、学校整備、教育財産、教員住宅の入退去・維持管理、物品管理、学校経理、学校施設の維持管理、奨学資金、その他学校管理に關すること、佐呂間高校存続対策に關すること、オホーツク管内教育委員会協議会に關すること、教職員の免許状、教職員の旅費、校務支援システムに關すること、他の係に属さない事務
管理課参事 弘内 裕子 主任指導主事 【野村 克仁】 語学指導助手 【メイヤ・クリスティン】	学校教育係長（弘内 裕子）— 沢井 香奈・（中谷 駿介）・斎藤 博 教職員の研修、学齢児童生徒の就学、児童生徒の入学・転学・退学、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、通学区域、教育課程・学習指導・生徒指導・職業指導、学習効果の評価、就学奨励に關すること、要保護・準要保護児童生徒の認定等、教科書・その他教材に關すること、教職員及び児童生徒の福利厚生・保健衛生に關すること、児童生徒の災害、語学指導助手に關すること、姉妹校交流に關すること、遠距離通学に關すること、税外収入に關すること、学校に關する各種調査、GIGAスクールに關すること、学校給食に關すること、その他学校教育に關すること
学校給食センター所長 （西村 雅人） 次長 中村 繁人 TEL 5-2555 FAX 5-3950	学校給食係長（中村 繁人）— （中谷 駿介） 栄養教諭・管理栄養士 大島 智恵 学校給食センターの管理運営、諸業務、施設の点検・整備
社会教育課長 土本 千晶 課長補佐 阿部 真 TEL 2-1295 FAX 2-1131	社会教育係長（阿部 真）— 今野 稀心・（前川 隼紀） 社会教育委員、青少年教育・婦人教育・成人教育・高齢者教育、青少年団体・文化団体の育成指導、社会教育施設の整備・管理運営、文化財の保護、郷土資料の収集保存管理、成人式、生涯学習、その他社会教育に關すること 社会教育係主査 山本 幸代 社会体育係長 中原 央人— 前川 隼記・（今野 稀心） 社会体育事業、社会体育施設の整備・運営管理、スポーツ推進委員、社会体育団体の育成指導、学校開放事業、地域体育の振興、その他社会体育に關すること
図書館長 山原 光広 TEL 2-2215 FAX 2-2632	管理奉仕係長（山原 光広）— 内藤 佳弥・岩本 扇 【渡辺 晶子】・久米 修一 公印の管守・文書の收受・発送・整理・保存、図書館協議会、物品の出納管理、図書資料の発注・収集・整理保存、図書資料の分類配列・目録の整備、参考業務・読書相談、図書館奉仕に關すること
武道館・温水プール館長 （土本 千晶） 副館長 前 典宏 TEL 2-2261 FAX 2-1461	管理指導係長 佐藤 大輔 — （前川 隼記） 公印の管守、公文書の收受・発送・整理・保存、物品の出納管理、施設の使用許可、施設の整備・維持管理、体育・スポーツ・レクリエーション活動普及・調査研究、資料の収集・整理保存・活用、各種スポーツの適正・健康・体力相談、施設利用者に対する事故防止の監視、目的を達成に必要な事業

佐 呂 間 町 民 憲 章

わたくしたちは、森と湖のきびしい大自然の中で開拓した先人のたくましい精神を受けつぐ佐呂間町民であることを誇りとしています。

わたくしたちは、自然の恵みに感謝しながら生きがいのある生活確立し、希望と自信をもって、ひとりひとりの幸せと未来に伸びゆく、豊かで明るいまちをつくるため、この憲章を定めます。

わたくしたち佐呂間町民は、英知と友愛と勇気をもって、

- 1 自然の恵みを生かし、美しく住みよいまちをつくります。
- 1 進んできまりを守り、明るく平和なまちをつくります。
- 1 たがいに助け合い、あたたかく幸せなまちをつくります。
- 1 仕事に誇りをもち、楽しく豊かなまちをつくります。
- 1 若い力をそだて、伸びゆく文化のまちをつくります。

(昭和50年12月11日制定)

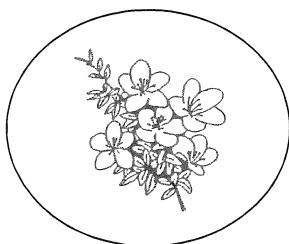
生涯スポーツの町宣言

わたくしたち佐呂間町民は、生涯を通じて、スポーツを愛したくましい心と体を鍛え、健康で明るい豊かな郷土を築くため「生涯スポーツの町」を宣言します。

- 1 スポーツを愛し、豊かな心と健やかな体をつくりましょう。
- 1 スポーツに親しみ、いつまでも活力ある生活を送りましょう。
- 1 スポーツを楽しみ、ふれあいと友情を深めましょう。
- 1 スポーツの輪を広げ、明るく住みよいまちをつくりましょう。

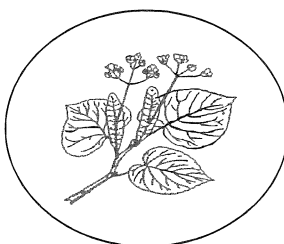
(昭和62年5月7日宣言)

町 花



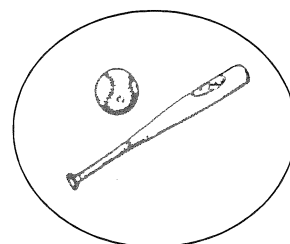
エゾムラサキツツジ

町 木



オオバボダイジュ

町 技



ソフトボール

(昭和59年9月12日制定)

「令和 7 年度 佐呂間町教育の概要」

佐呂間町教育委員会 管理課総務係

TEL : 01587 (2) 1294

FAX : 01587 (2) 1131

E-mail : kyoui@town.saroma.hokkaido.jp